



# 明治大学博物館

年報

2022年度

明治大学博物館  
MEIJI UNIVERSITY MUSEUM





明治大学博物館

# 年 報

2022年度



明治大学博物館

# 目 次

I 展示活動	3
1. 特別展	
2. その他の展覧会／コラム展示	
II 教育普及活動	8
1. 講座	
2. 博物館実習	
3. 在学生対象事業	
4. アウトリーチ活動	
5. 社会連携・大学間連携	
6. 博物館ボランティア活動	
7. 明治大学博物館友の会	
III 広報活動と情報発信	14
1. オンライン発信	
2. 印刷物	
3. 報道機関等による取材	
4. ミュージアムショップ	
IV 研究活動	19
1. 調査・研究活動	
2. 研究業績	
3. 刊行物	
4. 海外の研究者・留学生等への対応	
V 収蔵資料	22
1. 資料収集	
2. 資料整理	
3. 資料記録	
4. 資料利用	
5. 図書	
VI 統計・一覧・資料	30
1. 入館データ	
2. 組織・構成	
3. 予算・決算	
4. 施設概要・見取り図	
5. 規程	
6. 2022年度博物館事業計画書	
7. 明治大学博物館のあゆみ	
VII 企画展「古代常陸の雄・三昧塚古墳」の開催	50
VIII 内藤家親族関係史料	I

表紙写真：「新収蔵・収蔵資料展2022」 出展資料より

本書の編集にはMicrosoft Word及びAffinity Publisher ver. 1.10.6を使用した。

# I 展示活動

## 1 特別展

### (1) 新しいお殿様 ― 所替・その後 ―

#### ① 実施形態

主 催 明治大学博物館  
会 期 10月14日(金)～12月14日(水)：51日間 (日曜・祝日は閉室)  
会 場 アカデミーコモンB1博物館特別展示室 入場無料 入場者数：6,641名  
担 当 者 日比佳代子 (刑事部門担当学芸員)

#### ② 概要

博物館では所蔵する「内藤家文書」の調査研究を進め、これまでに転封大名の新領における「藩」の構築過程などを解明してきた。2022年度特別展では、この成果を展示というビジュアルな媒体でわかりやすく解説する。

1747年に岩城平（現・福島県）から延岡（現・宮崎県）へ転封（国替え）した内藤藩。東北大名だった内藤家にとって、新領は江戸から遠く、大坂・長崎という幕府の重要拠点とのかかわりも生じる未知の世界であった。特別展では、内藤藩が新領地でいかにして統治を実現し、領地・領民との一体性を有する「藩」を形成していくのかに迫る。

これまでの内藤家文書の調査成果を反映した図録の刊行、デジタル展示コンテンツ作成による展示の記録化により、内藤家文書活用の基礎整備を進めると共に、展示内容に関わる複製品の製作、内藤家文書の絵図や外部機関が有する絵画資料のタペストリー化など、今後の利用が可能な形で、内藤家文書の理解を深める関連資料作りを行う。

#### ③ 展示構成

##### ア I 所替とは

江戸時代に行われた大名の領地移動の全体像を説明し、城主が9回交代した亀山藩で2回城主となった板倉家の引継ぎ資料を展示。地域によっては所替で領主が変わることは珍しくなかったことを紹介した。

展示品：「覚書」（明治大学博物館所蔵 伊勢国亀山藩板倉家文書）など

##### イ II 内藤家

展示の舞台となる譜代大名内藤家の歴史を紹介。戦国時代には徳川家の家臣であった内藤家が、関ヶ原の合戦を経て大名化するまでを、初期の当主内藤家長、政長の姿と共に展示し、三河国（現・愛知県）、上総国（現・千葉県）、陸奥国（現・福島県）、日向国（宮崎県）へと領地が移動したため、各時代を経て段階的に内藤家臣団が形成されたことを紹介した。

展示品：「内藤家長・馨崇院画像」（レプリカ展示・原本は延岡城・内藤記念博物館）

「内藤政長画像」（同上）

「関原合戦画卷」（明治大学博物館所蔵 内藤家文書）など

##### ウ III 延岡への所替

延享4（1747）年に内藤家は陸奥国磐城平から日向国延岡へ所替を命じられた。内藤家の新しい領地を含む九州の大型絵図を展示し、領地の状況を説明した。また、荷物管理のために陸奥国に残された藩士達や、磐城平の郷土身分の者が身分を解かれた後も荷物輸送を手伝ったことなどが記された資料を紹介した。

展示品：「筑後筑前豊後豊前四ヶ国之図」（明治大学博物館所蔵 新収資料）  
「肥後日向両国之図」（同上）など

#### エ IV 東から西へ

内藤家の領地は日向国延岡となり、内藤家は九州大名となった。江戸から長崎までの道中を描く「日本東西道中画」と共に、東北から九州に領地が変わったことで内藤家にもたらされた様々な変化(江戸屋敷の家臣の配置、年貢米の売りさばき方法、商人との関係、大坂屋敷の新設、西国の幕府役人とのかかわりなど)を紹介した。

展示品：「江戸一目図屏風」（タペストリー展示 原本は津山郷土博物館）  
「御書方年中行事」（明治大学博物館所蔵 内藤家文書）  
「豊後三郡図」（同上）

#### オ V 統治のはじまり

日向国延岡に所替した後、内藤家の家臣たちの禄高がへらされたことや、城周りの修復をしなければならなかったことなど、厳しい状況の中で統治が始まったことを紹介した。

展示品：「延岡城下図屏風」（タペストリー展示 原本：一般社団法人きよたか美術館、画像提供：延岡城・内藤記念博物館）  
「被仰出控」（明治大学博物館所蔵 内藤家文書）  
「日向国延岡城石垣築直堀浚之絵図」（同上）

#### カ VI 延岡領の町と村

延岡藩の町や村の役人達や郷土などについて紹介しつつ、城下で行われるお祭りや藩とのかかわりや、災害時やインフラの修繕などの局面で、村や町と藩がお互いに負担をしあっていたことなどを示す資料を展示した。

展示品：「延岡領村絵図 今山附近之図」（明治大学博物館所蔵 内藤家文書）  
「今山八幡宮御神幸行列絵巻」（パネル展示 原本は延岡城・内藤記念博物館）

#### キ VII お殿様と領地

その後の内藤家と領民との関係を、藩主の御初入(領地に初めて入ること)や、幕末期に藩主祖母へ海産物を献上する領民の姿などと共に紹介。内藤家はこれ以降、所替もなく、延岡で明治を迎えるが、当主の居所は東京に移る。昭和13年に建てられた旧内藤政道邸の古写真を展示室内でスライド上映し、紙模型を展示した。

展示品：「岩城平城図」（明治大学博物館所蔵 内藤家文書）  
「延岡御城附絵図(白杵郡全図）」（同上）

#### ク 動画コーナー

特別展示室内で、展示の理解を深める動画4本を公開

動画タイトル：「明治大学と内藤家文書」、「特別展見どころ紹介」、「日本東西道中画」、「旧内藤邸写真」

#### ケ ハンズオンコーナー

特別展示室内に展示品の複製品2点を設置し、触ってじっくり観察するコーナーを設置。

ハンズオン用複製品：「日本東西道中画」、「旧内藤邸紙模型（小）」

### ④ 展示資料の概要

明治大学博物館所蔵内藤家文書より古文書29点、絵図7点、卷子1点

明治大学博物館所蔵伊勢国亀山藩板倉家文書より古文書3点

明治大学博物館所蔵豊後白杵藩(稲葉家)関係文書より古文書2点

目録1号切支丹関係より1点

新収資料より卷子1点、絵図2点

レプリカ2点、タペストリー2点、パネル展示1、旧内藤邸紙模型1点  
動画4編  
ハンズオン用複製品2点

## ⑤ 関連イベント

### ア 講演会

- ・リバティアカデミー特別企画 明治大学博物館2022年度特別展開幕記念講演会  
「幕末期、民衆の所替え反対運動」  
講師：文学部准教授 野尻泰弘  
10月15日（土）～同28日（金）配信  
申込者数 155名
- ・「城下町延岡における祭礼～今山八幡宮御神幸行列を題材に～」  
講師：延岡城・内藤記念博物館 博物館係長（学芸員）増田豪  
11月16日（水）14:00～15:30 会場：博物館教室  
参加者 45人（博物館教室21名 [うちスタッフ6名]、Zoom24名）

### イ ギャラリートーク

- ・ホームカミングデー校友向け展示解説  
10月23日（日） 13:00～13:30、15:00～15:30の2回実施  
会場：博物館教室  
参加者 31人（1回目16人、2回目15人）
- ・在学生向け解説（特別展解説＋バックヤードで古文書観覧）  
11月5日（土）、12月3日（土）10:30～11:30  
会場：特別展示室、作業室1  
参加者 14人（1回目9人、2回目5人）
- ・友の会向けzoomギャラリートーク  
12月13日（火）10:00～11:30  
参加者 86人

## ⑥ 刊行物

### ア 図録「新しいお殿様一所替・その後」

編集 明治大学博物館学芸員 日比佳代子

価格 1,200円

発行 2022年10月14日 ページ数：120ページ 部数：1,000部

## ⑦ グッズ制作

クリアファイル 150円 400部

ますきんぐてえぶ 400円 400部

## 2. その他の展覧会／コラム展示

### (1) 主催・共催展覧会

#### ① 2021年度博物館特別展 校友山脈第Ⅱ部

##### 「神田学生街 140年の今⇄昔」

会 期 2月3日～4月10日

入場者数 3,147名

主 催 明治大学史資料センター  
明治大学博物館

日本最古・最大の学生街である神田は、下宿屋、書店、料理店など学生たちの大きな生活圏が形成され、今なお学生を育む街として変化と成長を続けている。SDGs 17の「4 質の高い教育をみんなに」、「11 住み続けられるまちづくりを」にリンクし、展示室とオンライン空間とを組み合わせ、学生街の今／昔を紹介し、学生街と大学のさらなる魅力を探求した。

#### ② 新収蔵・収蔵資料展2022

会 期 4月18日～5月16日 21日間

入場者数 1,680名

主 催 明治大学博物館

2021年度の購入資史料・関連収蔵資料の公開を主な目的として商品・刑事・考古の各部門が展示を行った。主な展示品は近年の収蔵品も含め、商品部門では受贈した漆器（19世紀後半）や陶磁器（20世紀前半）の伝世品、刑事部門からは「御取手縄仕様書」、そして考古部門の馬形飾付金銅製冠（三昧塚古墳、復元品）。

#### ③ こ・と・わ・ざー風刺とユーモア

会 期 5月21日～6月25日

入場者数 2,610名

主 催 明治大学博物館

ことわざには教訓としての性格を持つものが多く、欲望や倫理観の欠如による人の失敗や世の中の矛盾する状況に対する戒めの意味があり、そこからは人間の“業”とでも言うべきものを読み取れる。短い字数ながら普遍的で奥深い批評であり、江戸時代から大正期頃までには図像と文字の組み合わせによる絵画や印刷物が数多く製作されている。そうした市井の人々の間で流布した批評の精神を拾い上げ

た。

#### ④ 古代常陸の雄・三昧塚古墳

会 期 7月8日～8月7日

入場者数 5,438名

主 催 明治大学博物館

特別共催 茨城県立歴史館

後 援 行方市教育委員会

霞ヶ浦北岸に位置する三昧塚古墳（5世紀末）は、明治大学が関わった1955年の発掘調査で国内唯一の馬形飾付金銅透彫冠をはじめとする数千点にもおよぶ大量の副葬品が出土し、国の重要文化財に指定されている。その後、茨城県によって3年にわたり全面的な保存修復が行われた。形状が修正された横板板鍔留短甲のほか、茨城県立歴史館収蔵の冠、垂飾、大刀、銅鏡、ガラス玉など約130件、2,000点以上に及ぶ主要な資料群を茨城県外で初めて公開した。本企画展より、対面での一般向け展示解説を再開した。

#### ⑤ 収蔵庫のとおき一知られざる逸品の数々

会 期 2023年1月28日～3月11日  
35日間

入場者数 4,020名

主 催 明治大学博物館

明治大学博物館では、45万点もの学術資料を収蔵している。しかし、常設展示室で公開されているものは2,000点に過ぎない。本展では、出番を待っている資料のうちから、当館の広報誌『ミュージアムアイズ』の人気コーナー「収蔵庫から」で紹介された注目の逸品を展示した。

#### ⑥ 山岳部から極点へー植村直己・登山と冒険の足跡ー

会 期 2023年3月24日～5月15日

主 催 公益財団法人植村記念財団

共 催 明治大学体育会山岳部

世界初の五大陸最高峰登頂や北極点単独到達を果たした冒険家・植村直己にとって、明治大学入学とともに山岳部に入ったことが冒険の始まりであった。植村直己は、大学卒業とともに海外の山々をめざして日本を飛び出し、以降、数々の冒険を重ねていくが、極限の自然の中で人間の可能性に挑戦した行動

は、時代を超えて私たちに大きな刺激を与えてくれる。原点である山岳部の活動と、ここから世界に飛び出し、ついには極点へと到達したその足跡を紹介する。

## (2) コレクション展

### ① 商品部門

#### ア 岡山のいぐさ製品

会期 7月2日～9月29日 69日間

倉敷段通2点、いぐさ製資料9点展示。倉敷段通の開発と民藝運動の関係を概観、籠やバッグなど工芸品の生産背景を「民藝ブーム」をキーワードに考察した。

#### イ 津軽こぎんと刺し子

会期 10月1日～12月24日 71日間

青森県のこぎんを5点展示。民藝運動とこぎん生産の關係に着眼し、自家用だったこぎんが商品化に至るまでの道程を振り返った。

#### ウ 高麗茶碗の系譜

会期 2023年1月11日～3月30日 64日間

萩焼、出雲焼楽山窯の資料を6点展示。高麗茶碗、朝鮮半島の日常雑器に、萩焼と出雲焼楽山窯の起源を求めた。

### ② 刑事部門

#### ア 桜田門外の変と延岡藩

会期 前期：7月9日～9月9日

後期：9月16日～11月30日 計139日間

桜田門外の変に関する内藤家文書や錦絵、切絵図を展示。前後期で錦絵を入れ替えてつづ、井伊家と内藤家の関係や桜田門外の変発生後の延岡藩の動きを紹介。本展示はNPO法人東京中央ネット主催第15回EDO ART EXPOの開催記念企画展として実施。

#### イ 江戸時代の束縛と自由～詫証文と離縁状からさぐる～

会期 2023年3月24日～6月30日

主催 文学部日本史学専攻近世史ゼミ・刑事部門共催

日本史学専攻近世史ゼミの学生が、展示品選び、テーマ設定、キャプション原稿などをすべて担当。江戸時代の社会と個人の間をよよく表す詫証文と離縁状を素材に、ど

のような時に作成されるのか、詫証文や離縁状と村や町とのかかわりなどを解説し、江戸時代に生きる人々の生活を描く。

### ③ 考古部門

#### ア 明大コレクション50：中国鏡

会期 2022年3月22日～5月24日 52日間

考古部門の中核的なコレクションである戦国代～唐代までの40面の青銅鏡を展示した。

#### イ 明大コレクション51：中国殷代の甲骨文

会期 2022年6月3日～9月13日 79日間

当館が所蔵する中国出土の12点の甲骨文を展示。比較的数量が少ないとされる第2期の資料が中心。釈文は、近年当該資料を調査した吉林大学の崎川隆氏のご教示をもとに作成した。

#### ウ 明大コレクション52：茨城県殿内遺跡の再葬墓

会期 12月13日～2022年3月14日91日間

購入資料である紀元前8世紀～前4世紀に栄えた古代ギリシア文明の陶器と同時期の古代南イタリア陶器を取り上げ、当時の土器について紹介した。

#### エ 明大コレクション53：上古の刀

会期 2023年2月3日～5月6日 71日間

埼玉県原谷古墳群、愛知県姫塚古墳の鉄製大刀を例に、直刀から日本刀への変遷を示した。

## (3) 図書館ギャラリー展示

### ① 中央図書館ギャラリー

本年度は実施せず。

### ② 生田図書館ギャラリーZERO

本年度は実施せず。

### ③ 和泉図書館ギャラリー

本年度は実施せず。

## II 教育普及活動

### 1. 講座

#### (1) リバティアカデミー博物館入門講座

本年度は実施せず。

#### (2) リバティアカデミー博物館公開講座

##### ① 明治大学博物館考古学ゼミナール

ア 第68回古代常陸の雄・三味塚古墳の新発見  
(Zoomによるオンライン開催)

【企画】 忽那敬三・島田和高

日時	7月8、15、22、29日 金曜日 15:00～16:30〈全4回〉		
定員	定員90名		
講師	①忽那敬三(明治大学博物館)、②小澤重雄(茨城県立歴史館)、③塚本敏夫(元興寺文化財研究所)、④佐々木憲一(明治大学)		
受講料	¥5,500	受講登録者数	52名
《趣旨》 明治大学も関わった当時の発掘の様子と出土遺物に関する最新の知見を紹介。重要文化財指定への道程や当時の技術で再現した冠の製作工程、5世紀後半の関東・日本列島における三味塚古墳と古代茨城国の位置づけを再検討した。			
①古墳は守られた・三味塚古墳の発掘調査とその実像(忽那) ②重要文化財指定への道のり・三味塚古墳指定の意義と保存修復(小澤) ③甕の金色の輝き・三味塚古墳と5世紀の金銅製品(塚本) ④茨城郡・行方郡の古墳時代と三味塚古墳(佐々木)			

イ 第69回 大塚初重先生と明大考古学

(対面とオンラインのハイブリッド開催)

【企画】 忽那敬三 【企画協力】 明治大学考古学専攻

日時	11月4、11、18、25日 金曜日 15:00～16:30〈全4回〉 定員 対面30名、オンライン100名		
講師	①橋本裕行(奈良県立橿原考古学研究所特別研究員)、②矢島國雄(明治大学名誉教授)、③忽那敬三(明治大学博物館)、④石川日出志(明治大学)		
受講料	¥5,500	受講登録者数	59名 (対面22、オンライン37)
《趣旨》 大塚先生が残された業績を振り返りつつ、考古学研究と生涯教育のこれからについて考える。			

- ①大塚先生の古墳時代研究(橋本)
- ②大塚先生と古墳壁画・史跡の保存-虎塚・馬渡・十五郎穴-(矢島)
- ③市民とともに・大塚先生と明大博物館・友の会・アカデミー(忽那)
- ④大塚先生と明治大学・考古学界(石川)

#### (3) リバティアカデミー特別企画

##### ① 明治大学博物館2022年度特別展開幕記念講演会「幕末期、民衆の所替え反対運動」

(Zoomによるオンライン開催)

【企画】 日比佳代子

日時 10月15日(土)～同28日(金) 配信  
申込者数 155名

講師 野尻泰弘(文学部准教授)

#### (4) 特別展関連講座

##### ① 「城下町延岡における祭礼～今山八幡宮御神幸行列を題材に～」

(Zoomと対面のハイブリッド)

【企画】 日比佳代子

日時 11月16日(水) 14:00～15:30

会場 博物館教室

受講者 45人(対面21名・内スタッフ6名、Zoom24名)

講師 増田 豪(延岡城・内藤記念博物館博物館係長・学芸員)

#### (5) 商学研究科と共催の公開特別講義

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大にともない、開催の前提となる調査活動が実現せず、招聘講師の交渉もできなかったため中止とした。

### 2. 博物館実習

#### (1) 館務実習

##### ① 商品部門

参加者数 明治大学14名

《実習内容》

館内施設・設備見学、ワークシート作成実習、収蔵資料整理（台帳カード作成、保存容器組立と資料収納）、資料原簿のデジタル化

## ② 刑事部門

参加者数 明治大学10名

《実習内容》

館内施設・設備見学、古文書整理、マイクロフィルム整理、収蔵庫整理、展示調査・解説発表

## ③ 考古部門

参加者数 明治大学14名

《実習内容》

収蔵資料整理、保存処理、保存資材制作、坂本万七写真研究所コレクション整理、コレクション展パネル制作

## ④ 夏季集中実習

参加者数 明治大学8名

学芸員養成課程との共同開催。全5日間の内、3日間を博物館学芸員が指導した。

《実習内容》

収蔵資料整理(台帳カード作成)、展示用動画検討会、図録作成作業、模擬展示解説、土器洗浄・注記、台帳データ作成

## (2) 見学実習受入れ

本年度は実施せず。

## 3. 在学生対象事業

### (1) 「大学博物館の現場を実見する」全学共通総合講座

秋学期開講 月曜2限

《授業の概要・到達目標》

本学の博物館は90年以上の歴史を持つ。収蔵資料の充実や利用者サービスで大学博物館トップクラスの評価を得ており、その存在が明治大学の教育・研究活動を特色付けている。この授業では、学術資源の豊富な収蔵を特徴とする大学博物館を事例として、資料収集の経緯と手順、学術資源として幅広く研究に活用されるための手当て、さらに研究成果を社会に還元する装置としての展覧会開催に言及し、大学及び大学博物館と一般市民に

よる生涯学習活動との関わりなど、収集・研究・教育という博物館活動の一連の流れを理解する。

回	テーマ	担当者
1	イントロダクション／博物館の役割と機能	駒見和夫*
2	我が国における大学博物館の現状と明治大学博物館の歴史	外山 徹
3	博物館資料の形成4(商品関係資料)	外山 徹
4	博物館資料の形成2(弥生～古墳)	忽那敬三
5	博物館資料の形成3(刑事関係文献・歴史資料)	日比佳代子
6	博物館資料の形成1(旧石器～縄文)	島田和高
7	展示解説の理念と方法	外山 徹
8	博物館の施設・設備	島田和高
9	博物館資料の整理と保存	忽那敬三 日比佳代子
10	博物館友の会と生涯学習活動	忽那敬三
11	展覧会の開催まで(2022年度特別展)	日比佳代子
12	考古資料の発掘と調査・研究	島田和高
13	伝統的工芸品産業の調査・研究	外山 徹
14	総括 ふりかえりと意見交換	駒見和夫

\* 文学部教授(学芸員養成課程)・博物館運営委員・本講座コーディネーター  
受講登録者数21名  
※新型コロナウイルス感染症感染防止に留意し、履修者の上限を24名とした  
※都合により一部授業の順を入れ替えて実施した

### (2) 在学生対象バックヤードイベントの実施

コロナ禍によって制約の多い在学生に対する学内部署横断型支援事業「明大生のための！！学生生活充実サポート」の一環として、また、2021年度で閉講した国際日本学部「文化資料学」に代わる在学生教育事業として、ワークショップ及びバックヤードツアーを実施した。学生向けポータルサイトOh-o!Meijiへの告知により各回定員12名を募集した。

### ① ワークショップ@バックヤード

回	月日	テーマ	担当	人数
1	5/21	秀吉が出した手紙も見れちゃう？はじめての古文書体験	日比	10名
2	6/18	石器から古墳まで・日本先史文化の展示解説と土器の注記体験	忽那	9名
3	7/16	霞ヶ浦北岸の王・三味塚古墳展と埴輪の接合体験	忽那	9名
4	10/15	石器から古墳まで・日本先史文化の展示解説と土器の洗浄体験	忽那	11名
5	11/5	特別展の展示解説と譜代大名内藤家文書絵図面の特別閲覧	日比	9名
6	12/3	特別展の展示解説と譜代大名内藤家文書絵図面の特別閲覧	日比	5名
7	12/17	金色の冠！鏡！はにわ！～明大生のための古墳教室	忽那	10名
8	3/16	抹茶碗を手にとってやきものの魅力を知る	外山	10名
9	3/24	本物の土器に触れてみよう・弥生土器の注記作業体験	忽那	9名

### ② バックヤードツアー

- ①6/4：12名、②7/2：10名、③10/22：9名  
④11/12：11名、⑤11/26：8名 合計50名

### (3) 文学部史学地理学科日本史学専攻近世史ゼミ・明治大学博物館共催コラム展の実施

博物館という環境と、国内有数の良質な収蔵資料を活用し、学生に実践的な学びの場を提供するべく、日本史学専攻近世史ゼミの学生が主体となった小規模展示を企画し、実施した。

文学部野尻泰弘准教授の指導のもと、展示品選び、資料の解説、テーマ設定、展示タイトル、キャプション原稿作成などの展示準備は、すべて院生と学生が行った。博物館は学生が様々なことに挑戦することのできる教育的・成長促進的視点に立った支援をめざし、スケジュール管理や内容の助言、ポスター類デザインなどを担った。

#### 【活動内容】

2023年1月24日（資料調査、撮影）、2月28日（各自翻刻してきた資料の読み合わせ、パネル原稿発表）、3月10日（資料読み合わせ、パネル原稿確定、展示名検討、配置検討）、3月23日（列品）

#### 【展示タイトル】

文学部日本史学専攻近世史ゼミ・刑事部門共催コ

ラム展「江戸時代の束縛と自由～詫証文と離縁状からさぐる～」

#### 【会期】

2023年3月24日～6月30日

#### 【展示内容】

日本史学専攻近世史ゼミの学生が、展示品選び、テーマ設定、キャプション原稿などをすべて担当。江戸時代の社会と個人の間をよよく表す詫証文と離縁状を素材に、どのような時に作成されるのか、詫証文や離縁状と村や町とのかかわりなどを解説し、江戸時代に生きる人々の生活を描いた。

### (4) 史学地理学科考古学専攻・日本史学専攻新入生見学会

#### ① 考古学専攻

日時 4月9日（土曜日）10:00～11:30

参加人数 52名（申し込み時）

常設展示室・考古エリアの展示解説と、博物館図書室ならびに写真保管庫・作業室・収蔵庫のバックヤード施設を見学し、利用方法や施設の機能のレクチャーを行った。

#### ② 日本史学専攻

日時 4月9日（土曜日）15:00～17:00

参加人数 100名（申し込み時）

村方文書の実物、内藤家文書の実物を2会場に列品し、常設展示室、2つの古文書会場を順に学生が見学。古文書会場では、教員と学芸員が協力して、史料の解説や質問への受け答えなどを行った。

### (5) 学生広報アンバサダー

学生同士が交流を深め、充実した学生生活を過ごせるよう支援するプログラムとして、2021年5月から学生広報アンバサダーを募集、活動をサポートしている。2022年度は13名のメンバーが活動を行った。

#### ① 春学期の活動（4月1日～9月19日）

ア 新入生交流会の開催（4/6）

新入生に博物館を観て、知ってもらおうとともに、学部を越えた明大生同士の絆づくりのき

っかけとなることを目的とした企画。約20名の新入生が参加、自己紹介の後、展示品の名称を用いた「しりとりゲーム」で交流を深めた。続いて、博物館学生広報アンバサダーを交えた懇談では、授業に関する先輩への質問や、サークル・出身地などさまざまな話題に花が咲いた。

#### イ 各キャンパスでのチラシ配布

企画展「こ・と・わ・ぎ ― 風刺とユーモア（会期：5/21～6/25）」と明大生が使える「美術館・博物館の会員制度」の両面チラシを各キャンパス昼休みに配布。5/20（金）中野、5/23（月）駿河台、5/27（金）和泉、5/30（月）生田、全4キャンパス各1回。チラシ配りにはめいじろうも協力、一緒に写真を撮りたい学生も集まり、広報効果を高めた。

#### ウ 三味塚古墳発掘カレーの考案・共同開発

企画展「古代常陸の雄・三味塚古墳（会期：7/8～8/7）」に合わせ、明大生や若年層に古墳への興味を持ってもらい、同企画展に会場してもらいたいとの思いから「三味塚古墳発掘カレー」を考案、カフェパンセと共同開発・販売した。明治大学が1955年の発掘調査に携わった三味塚古墳（茨城県行方市）がモチーフ。前方後円墳型に盛られたライスをストック型のスプーンで発掘すると、中からトッピング（遺物）が出現する。子どもでも美味しく食べられるようカレーは辛さをおさえ、茨城県産のレンコンチップスやかぼちゃで彩りを添えた。定価1,200円（サラダ・ドリンク付、博物館来館者割引有）。当初、販売期間を7/8～8/7と設定していたが、好評のため8/31まで延長した。

#### ② 秋学期の活動(9月20日～3月31日)

ア 「ナイトミュージアム2022～招待状は展示室から～」の開催（10/15）

普段は入ることが出来ない閉館後の博物館にて、謎解きを通して展示品について楽しく学ぶことを目的とした企画。約40名の学生が参加、3つの時間帯に分かれて集合、アイスブレイクのスマールトークの後、通常開館時よりも照度を落とした「ナイトミュージア

ム」にて、展示品に関する謎解きを行った。参加者には、本イベント限定の「捕者めいじろうアクリルスタンド」を記念品として配布した。

#### イ 第18回明治大学父母交流会への参加（11/27）

明治大学連合父母会が主催する第18回父母交流会にて、ポスター展示及び展示品クイズを行った。ポスター展示では自身らの活動内容を紹介、展示品クイズでは正解者にオリジナル缶バッジをプレゼントした。オリジナル缶バッジは全5種類、デザイン及び製作も担った。

#### ウ 常設展示刷新に向けたヒアリング会への参加（3/17）

博物館事務長からの依頼に応え、常設展示刷新に向けたヒアリング会にメンバー4名が参加した。学生、若者の視座から、現在の常設展示への評価及び2023年度実施予定の商品部門の常設展示刷新計画への意見を述べた。

### (6) その他学生教育への協力

#### ① 情報コミュニケーション学部小田光康ゼミ

7月29日：明治大学博物館の特徴と魅力について（取材）

#### ② 情報コミュニケーション学部後藤晶ゼミ

2023年2月13日～3月6日：看板等ナッジの設置による、アンケート回答数増加の実証実験。

## 4. アウトリーチ活動

本年度は実施せず。

## 5. 社会連携・大学間連携

### (1) 地域連携

#### ① 宮崎県延岡市

延岡城・内藤記念博物館の特別展「譜代大名 内藤家―その歴史と名宝―」・テーマ展「内藤家旧蔵の能狂言面 ～引き継がれてきた天下一の能面～」に内藤家文書 1-1-118 再選御系譜 内藤家政順代迄 他 計33点を

貸し出し。(貸出期間：2022年9月5日～11月15日)

## ② 茨城県

「古代常陸の雄・三味塚古墳」展の開催。茨城県立歴史館が特別共催となり、資料貸出、輸送、関連講座への首席研究員の出講などで開催を全面支援。

三味塚古墳出土重要文化財の追加修復・追加指定品選定の協議を11月15日茨城県立歴史館、12月8日明治大学博物館で2回にわたり実施。

古墳時代の霞ヶ浦北岸における首長系譜の研究に関連し、考古学専攻の茨城県立歴史館所蔵の三味塚古墳出土埴輪の調査に茨城県立歴史館が協力。

## ③ 大英博物館所蔵ウィリアム・ガウランド写真資料(寄託資料)関連資料の活用事業

本年度は活動なし。

## (2) 大学間連携：南山大学人類学博物館との交流事業

### ① 交換展示の実施

2021年まで新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によりオンライン展示を実施していたが、2022年度は通常どおり資料の交換展示を行った。

ア 明治大学博物館制作「化石人類の系統と絶滅動物ー明治大学博物館コレクションよりー」

会期：9月24日～11月5日

会場：南山大学人類学博物館

考古部門が収集してきた世界の化石人類、旧石器ヴィーナス像、絶滅大型哺乳類のレプリカコレクション群32点を紹介。

イ 南山大学人類学博物館制作「南山大学人類学博物館のマコンデ彫刻たち」

会期：9月24日～11月5日

会場：明治大学博物館

時代によって制作地域や目的が変化し、それに伴って大きく形を変えるタンザニアのマコンデ彫刻コレクション32点を紹介。

## ② ギャラリートーク

10月22日と29日にそれぞれ展示担当者によるギャラリートークを実施した。

ア 明治大学会場(10月22日)

対面とオンラインのハイブリッドで開催。参加者22名。講師：井原瑠梨(南山大学人類学博物館学芸員)

イ 南山大学会場(10月29日)

対面で開催。参加者15名。講師：島田和高(明治大学博物館学芸員)

## ③ 在学生向け特別講義

ア 南山大学 5月24日 5限

テーマ 大学博物館の使命と機能

講師 外山徹(商品部門学芸員)

受講生 73名

※黒沢浩教授「博物館概論」として実施

イ 明治大学 11月25日 3・4限

テーマ 南山大学人類学博物館の試み：博物館における歴史と文化の展示の考え方

講師 黒沢 浩(南山大学人文学部教授)

受講生 24名

※学芸員養成課程「博物館実習」として実施

## (3) 大学間連携：広島大学総合博物館への表敬訪問

日程：2023年1月17・18日

訪問者：千葉修身館長、外山徹、忽那敬三

2021年夏に「ミュージアム キャラクター アワード」で本学の捕者めいじろうと広島大学総合博物館のヒロログが競い合ったことを契機に交流が始まり、情報発信やグッズ開発を共同でおこなってきた。博物館施設を視察するとともに、中坪孝之館長と千葉館長が両館の取り組みと将来構想について対談をした。広報誌「ミュージアムアイズ」80号に対談の抄録を掲載した。

## 6. 博物館ボランティア活動

### (1) 常設展解説ボランティア

#### ① 参加者

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため2022年度は実施せず。

#### ② 研修日程及び内容

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のため対面形式の展示解説員研修は実施せず、秋季にオンラインによる研修を実施した。

ア 研修講習会(オンライン会議)

日程	研修種別	研修内容
12月6日	考古部門1	黒曜石原産地推定研究の進展
	考古部門2	古代常陸の雄・三味塚古墳
12月13日	商品部門	ライフスタイルの変化と商品の価値形成

### (2) 図書室ボランティア

#### ① 友の会会員

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため2022年度は実施せず。

## 7. 明治大学博物館友の会

### (1) 概要

#### ① 会員数

451名 ※2023年2月28日現在

#### ② 総会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため書面による総会とした。

5月27日（書面報告期日）

2021年度事業報告／2021年度会計監査報告／  
2022年度事業計画／2022年度予算案／役員改選

### (2) 活動記録

#### ① 講演会

ア 総会特別Zoom講演会「古墳と北方世界」  
(6月4日) 視聴者82名 (会員限定)

講師 東北大学学術資源研究公開センター  
総合学術博物館教授 藤澤 敦

イ 第21回古代史講演会 (Zoom) 「百濟滅

亡と倭国」 (7月23日) 視聴者85名 (会員限定)

講師 滋賀県立大学名誉教授 田中俊明

ウ 第22回古代史講演会 (Zoom) 「玉からみた弥生・古墳時代」 (8月27日) 視聴者74名 (会員限定)

講師 奈良文化財研究所都城発掘調査部・  
研究員 谷澤亜里

エ Zoom講演会 日本考古学2022 (9月24日) 視聴者 95名 (会員限定)

「弥生時代青銅器研究二題－銅鐸九州形成説と王莽鏡論－」

講師 明治大学文学部教授・福島県文化財センター白河館「まほろん」館長 石川日出志

「土偶の謎は解けたのか？」

講師 横浜ユーラシア文化館 ユーラシア文化資料課主任学芸員 高橋 健

オ 第23回古代史講演会 (Zoom) 「古墳築造の終焉」 (12月3日) 視聴者66名 (会員限定)

講師 國學院大學文学部教授 青木 敬

カ Zoomによる近世史 (江戸文学) 講演会  
「狂歌の名手大田南畝の文事」 (2023年1月28日) 視聴者34名 (会員限定)

講師 法政大学文学部教授 小林ふみ子

キ ハイブリッド (博物館教室とZoom併用)  
エジプト講演会「ギザのピラミッドの3D計測調査」 (2023年2月21日) 参加者51名 (会場10名 Zoom41名 会員限定)

講師 名古屋大学高等研究院准教授 河江肖剰

ク ハイブリッド (博物館教室とZoom併用)  
会員発表会&講演会 (2023年3月3日) 参加者52名 (会場15名 Zoom37名 会員限定)

第一部 会員発表会 「縄文 (哲) 学のすすめ」土屋翼会員、「中島飛行機東京工場と地域社会の発展について」佐野昭義会員

第二部 講演会 「江戸時代初期の村と村人」明治大学文学部准教授 野尻泰弘

#### ② 見学会

ア 会員企画による地元見学会「文の京を歩

く」11月 【中止】

イ 江戸時代を探訪する Part 9 2023年2月  
【中止】

### ③ 広報活動

ア 会報発行：年4回（春・夏・秋・冬）

イ 行事案内：友の会ホームページでの情報  
提供

ウ 友の会掲示板の活用と行事チラシの作成

### ④ 博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	0名
博物館図書室書架整理	月1～2日	0名
展示解説	火・木・金	0名

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止により活動を休止した。

### ⑤ 学習サークル（原則として月1回活動）

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	20名	外山学芸員 森朋久氏※1
平成内藤家文書研究会	11名	伊能秀明氏※2
工芸の会	10名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	23名	島田学芸員
弥生文化研究会	21名	忽那学芸員
古文書の基礎を学ぶ会	28名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本研究会	25名	
前方後円墳研究会	23名	忽那学芸員
「倭国から大和」を学ぶ会	26名	
古代東北アジアと日本研究会	20名	
飛鳥・奈良の会	26名	

※1 明治大学農学部兼任講師

※2 元明治大学刑事博物館学芸員

## III 広報活動と情報発信

### 1. オンライン発信

#### (1) ホームページの公開

##### ・利用案内

- > 団体見学について
- > 博物館図書室のご案内
- > 古文書閲覧のご案内
- > ミュージアムショップM2
- > 博物館所蔵資料の利用
- > 館内の取材・撮影について

##### ・交通アクセス

##### ・展示紹介

###### 【常設展示】

- > 大学史展示室 > 商品部門 > 刑事部門
- > 考古部門

###### 【企画展・特別展】

- > 2022年展覧会案内 > 2021年展覧会案内
- > 過去の展覧会（2015年～2020年）
- > 過去の展覧会（2004年～2014年）

###### 【その他】

- > ONLINEミュージアム
- > Mm×おうちミュージアム
- > 博物館アーカイブ

##### ・博物館概要

- > 博物館長ごあいさつ > 理念・目標
- > 博物館紹介動画 > 博物館所蔵資料紹介
- > 博物館の重点事業 > 学芸スタッフ紹介
- > 教育プログラム > 広報誌「ミュージアム・アイズ」
- > 博物館年報 > リンク

##### ・よくある質問

##### ・博物館友の会

- > 入会のご案内 > 行事予定
- > 展示解説ボランティアについて
- > 博物館図書室受付ボランティアの募集について
- > 分科会のご案内

##### ・明治大学博物館へ寄付をお考えの方へ

##### ・ニュース一覧・イベント一覧

##### ・このような方はこちら

- > 明治大学博物館の団体見学をご希望の方
- > 明治大学博物館所蔵資料を出版・放送等に利用される方
- > 明治大学博物館へ取材を希望される方

##### ・明治大学博物館 公式Facebook

##### ・明治大学博物館 公式Twitter

- ・明治大学博物館 公式Instagram
- ・明治大学博物館 公式note
- ・明治大学博物館ONLINEミュージアム
- ・Mm×おうちミュージアム

## (2) 明治大学博物館ONLINE ミュージアム

本年度にはバーチャル常設展示室及び2022年度特別展を、Matterportを用いてVR化し（Ver. early 2023）、今後3ヵ年程度で各部門展示の解説コンテンツを実装していく。新たにフォトグラメトリによる3Dモデルの制作を開始した。コンテンツは、オンラインミュージアムのほかSketchfabで公開する。刑事部門コレクションの高精細画像コンテンツを追加した。これらは、2023年4月より公開。

### 【主要コンテンツ】

#### ① 「展示室をあるく」

Matterportを用いて常設展示室および2022年度特別展を再現。自由探索型のバーチャル展示室。

#### ② 「詳しく知る」

収蔵資料データベース、準備中

#### ③ 「じっくり見る」

Object VRによる360°画像、3Dモデル、高精細2D画像を用いた資料観察用のインタラクティブコンテンツ

#### ④ 展示会アーカイブ

特別展・企画展ほかの動画コンテンツを配信

#### ⑤ カタログ

前場幸司瓦コレクション資料目録ほか

## (3) Mm×おうちミュージアム

北海道博物館が呼びかけている「おうちミュージアム」の取り組みに参画した。賛同する全国の200館を超える博物館・美術館が「おうちミュージアム」という共通の冠名称を共有して、コロナ禍による臨時休館措置の代替事業として、あるいは自宅学習を余儀なくされている児童・生徒向けのサービスとして、館内の情報を発信、また自宅で学べるコンテンツなどを紹介した。

### 【コンテンツ一覧】

#### ① 収蔵資料紹介

ア 商品：むましの絵でみることわざ 小学校高学年向け(PDF)／小学5～6年生向け伝統工芸をまなぶ(PDF)／漆器①②③(動画)  
イ 刑事：武家諸法度(PDF)／生類憐みの令(PDF)／公事方御定書(PDF)／江戸の物価と世直し一揆(PDF)／図解五拾五ヶ條(動画)／捕者道具 他(動画)／印章の話(動画)／高札①②(動画)

ウ 考古：亀ヶ岡遺跡出土 遮光器土偶(動画)／舟塚古墳出土馬形埴輪(動画)／茂呂遺跡出土ナイフ形石器(動画)

#### ② 企画展記録動画

備前焼の新たな価値創造(動画)／こ・と・わ・ぎー風刺とユーモア(動画)／因・伯・雲のやきもの―山陰の手仕事から(動画)

※太字は2022年度から新規公開

#### ③ 展示解説シート

北東北の縄文遺跡群(PDF)

#### ④ アクティビティ

土器をくっつけて復元してみよう（神奈川県二ツ池遺跡出土：壺形土器・パズル）／武道修行鍛錬競ぬりえ／めいじろうぬりえ／「やよいどきをぬってみよう！」／「アマビエめいじろうをぬってみよう！」

## (4) 博物館利用案内動画

サイネージ掲示や各種のガイダンス用に3～4分程度の動画を作成した（2021年度より継続）。

#### ① 博物館総合案内

博物館の成り立ちや展示室の概要を紹介。2021年度は明治高等学校・中学校ガイダンスで配信したほかアカデミーコモン1階のサイネージで常時掲示している。

#### ② 博物館総合案内（英語版）

①の英語版。アカデミーコモンのサイネージやホームページで公開を予定。

#### ③ 博物館の代表的資料紹介動画

各部門3件ずつの代表的資料を解説。

## (5) オンラインによる広報活動

#### ① SNSによる情報発信

ア 特別展「新しいお殿様―所替・その後

ー)に係わる広報

事前広報9/20～10/15 (8回) / 見所紹介  
10/18～12/13 (12回) / いわき市・延岡市  
美味しいもの紹介10/29～12/10 (9回) /  
グッズ紹介10/25～11/15 (4回)

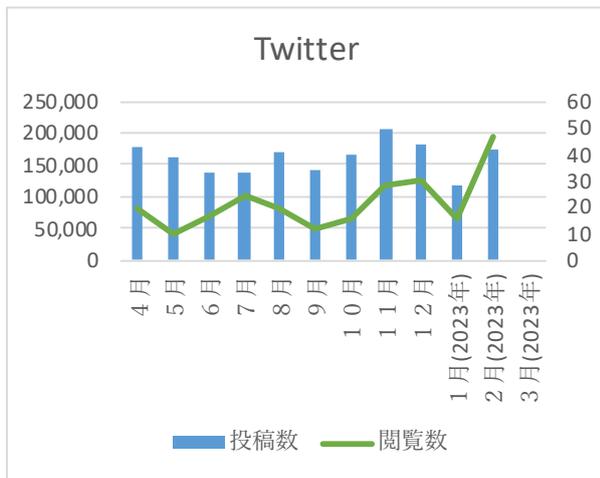
イ 展覧会に係わる広報：「神田学生街140年  
の今⇄昔」4/1～4/10 (4回) / 「新収蔵・  
収蔵資料展」4/12～5/13 (12回) / 「こと  
わざー風刺とユーモア」5/19～6/25 (19  
回) / 「古代常陸の雄・三味塚古墳」  
6/21～8/5 (21回) / 「収蔵庫のとおき」  
2023.1/23～3/10 (21回)

ウ 定期コンテンツ：「常設展もすごい」  
8/19～9/30 (11回)

② 発信数・閲覧数の推移

ア Twitter (上段：投稿数 下段：閲覧数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
43	39	33	33	41	34
80,709	39,580	69,400	100,066	79,679	49,746
10月	11月	12月	1月	2月	3月
40	49	44	28	42	44
64,279	117,419	125,346	65,279	194,909	147,471



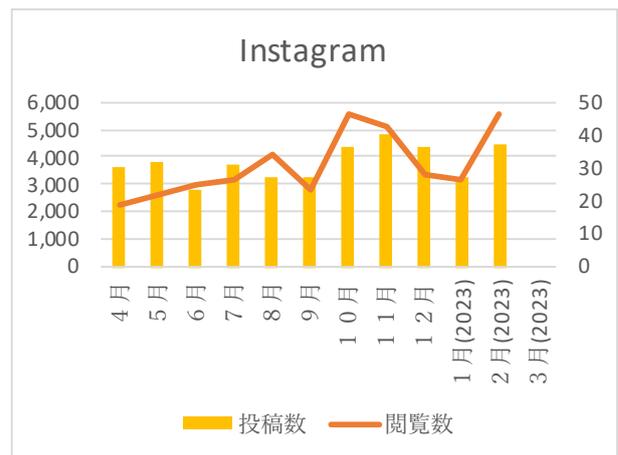
イ Facebook (上段：投稿数 下段：閲覧数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
36	35	31	32	36	33
2,765	2,474	3,032	12,119	3,642	7,439
10月	11月	12月	1月	2月	3月
37	43	38	28	41	39
3,197	9,059	3,376	3,583	3,560	4,082



ウ Instagram (上段：投稿数 下段：閲覧数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
30	32	23	31	33	27
2,213	2,609	3,019	3,173	4,120	2,827
10月	11月	12月	1月	2月	3月
36	40	36	27	37	37
5,547	5,120	3,391	3,159	5,525	5,418



※閲覧数：Twitterはインプレッション（のべ閲覧数）、FacebookとInstagramはリーチ数（同一閲覧者による複数回閲覧数を除外）をそれぞれサイトが提供するデータを掲載している。

## (6) オンラインイベントへの参加

### ① IMインターネットミュージアム「ミュージアム千支コレクション2023」

商品部門収蔵のぽっくり下駄《兎波を走る》（時田昌瑞ことわざコレクション 昭和戦前）をエントリーした。12月13日から1月26日までの45日間にわたる投票期間に334票を得て12位となった。

## (7) 江戸アートエキスポへの参画

NPO法人東京中央ネットが立ち上げた”EDO ART EXPO”実行委員会が主催する、東京都中央区、千代田区、港区、墨田区の商業施設、企業、ホテル、神社仏閣や文化・観光施設などの既存の施設をパビリオンに見立てて江戸から続く伝統や文化・芸術を紹介する仮想博覧会イベントに「関連展示会場」として参画した。

会期：9月23日～10月11日 19日間

※当館は日曜休館のため16日間

会期中の常設展入場者 1,639名

会期に合わせて刑事部門のコラム展「桜田門外の変と延岡藩」を開催した。

## 2. 印刷物

### (1) 広報誌『ミュージアム・アイズ』

#### ① 79号

特集 新しいお殿様一所替・その後—  
5,000部、10月14日発行

#### ② 80号

特集 大学博物館の可能性—明治大学博物館  
長×広島大学総合博物館長 5,000部 2023年  
3月23日発行

### (2) 『2021年度明治大学博物館年報』

A4判、51頁、200部、2023年3月31日刊行

ウェブ公開のため配布は学内関係者のみ

<https://www.meiji.ac.jp/museum/annual/6t5h7p00000curqk.html>

本文モノクロ、一部4C

## (3) その他

### ① 『明治大学大久保忠和考古学振興基金実施報告』

A4判、17頁、400部、2023年3月31日刊行

### ② 展覧会案内2022年(A4判三ツ折)20,000部

## 3. 報道機関等による取材

### (1) 新聞掲載

「こ・と・わ・ざー風刺とユーモア」告知

「朝日新聞夕刊」朝日新聞社

古代常陸の雄・三味塚古墳」告知

「朝日新聞夕刊」朝日新聞社

特別展「新しいお殿様一所替、その後—」告知

「朝日新聞夕刊」朝日新聞社

「収蔵庫のとおき—知られざる逸品の数々—」告知

「朝日新聞夕刊」朝日新聞社

### (2) テレビ放映

「偉人・素顔の履歴書」BS11

刑事部門展示紹介・収蔵資料紹介

「探検！博物館ワンダーランド」NHK BSプレミアム

明治大学博物館紹介（再々放送）

「ガリレオX」ABS秋田放送

明治大学博物館紹介（再放送）

### (3) 雑誌掲載

『週刊現代』講談社

刑事部門資料掲載

『蛍雪時代』8月臨時増刊 旺文社

明治大学博物館案内

『男の隠れ家』7月号 三栄

明治大学博物館案内

『美術年鑑2023年版』美術年鑑社

明治大学博物館案内

『京王・井の頭線みんなの大学』12月号 京王エージェンシー

明治大学博物館・大学史紹介

『歩く地図 東京散歩2024』成美堂出版

明治大学博物館紹介

『ハルメキ！千代田2023』千代田区観光協会  
明治大学博物館紹介  
『心躍る博物館完全版』TAC出版  
明治大学博物館紹介

#### (4) 官公庁刊行物掲載

『ちよだ生涯学習ガイドブック』九段生涯学習館  
明治大学博物館案内  
『東京バリアフリーガイドブック』東京都産業労働局  
明治大学博物館案内

#### (5) その他印刷物掲載

舞台「サンソールイ16世の首を刎ねた男」  
公演パンフレット キョードー東京  
明治大学博物館訪問記

#### (6) ウェブサイト掲載

YouTubeチャンネル「ほーりーとお江戸いいね！」  
明治大学博物館刑事部門紹介  
「朝日新聞GLOBE」朝日新聞社  
明治大学博物館 刑事部門紹介  
YouTubeチャンネル「ガリレオCh」ワック  
明治大学博物館紹介  
「千代田ミュージアム&シアターマップ」千代田区文化振興課  
明治大学博物館案内  
「ロピクマ！」大東建託パートナーズ  
明治大学博物館案内  
「るるぶ観光データベース」JTBパブリッシャーズ  
明治大学博物館案内  
「JRおでかけネット」JR西日本  
明治大学博物館訪問記  
「じゃらんnet」リクルート  
明治大学博物館案内  
「縁結び大学」マッチングアプリ大学  
明治大学博物館紹介  
「JAPAN TEXTILE NEWS 布と糸の文化の情報サイト」  
コラム展「津軽こぎんと刺し子」紹介

「Japanview」大空出版  
明治大学博物館案内  
「DOCODEX(どこ出かける?)」ヘルシーストック  
明治大学博物館紹介  
「ウォーカープラス」KADOKAWA  
明治大学博物館案内  
「東京バリアフリーガイドブック」東京都産業労働局  
明治大学博物館案内

## 4. ミュージアムショップ

### (1) グッズ販売

見本を展示、受付窓口で刊行物等有償頒布  
《2022年度新規開発商品》  
・三味塚古墳メモパッド 500部 7月販売開始  
・おうじゃのかんむり 900部 7月販売開始  
・Tシャツ(古墳ネイビー) S、M、L、XL、XXL 計200枚 11月販売開始  
・特別展関連グッズ クリアファイル 400枚 150円  
・特別展関連グッズ ますきんぐてえぶ 400個 400円

### (2) 他館の情報

大学博物館及び関連する博物館・美術館・学会等のリーフレット・チラシを配布

### (3) 来館者の声

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

### (4) 友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

### (5) 博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

# IV 研究活動

## 1. 調査・研究活動

### (1) 商品部門

#### ① 伝統的工芸品のマーケティング研究 (信楽焼)

##### ア 信楽焼調査 (11月15日・16日)

調査の本格的な再開を見通し、株式会社藤陶(卸売商社)、信楽窯業技術試験場、信楽焼伝統産業会館において趣旨説明をおこなった。また、長野地区の訪問客受入れ施設・サイン表示の状況を視察した。

調査員：外山徹

##### イ 信楽焼調査 (2023年3月28日・29日)

伝統工芸士大西左朗氏 信楽焼伝統産業会館長川澄一司氏 滋賀県立陶芸の森陶芸館大西氏には伝統工芸士による作陶・販売の現状について、信楽窯業技術試験場の前場長である川澄氏には試験場が主導した商品開発研究会の活動についてヒアリング調査をおこなった。陶芸の森学芸員鈎真一氏の案内で展覧会「湯呑茶碗—ちょっと昔の、やきもの日本縦断旅—」を視察した。

調査員：菊池一夫(商学部教授)、上原義子(商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授)、外山徹

#### ② 常設展リニューアルに向けての伝統的工芸品調査

##### ア 越前漆器 (2023年3月7日・8日)

##### 株式会社漆琳堂 あたかや漆器店

常設展リニューアル計画の内、近年の伝統的工芸品商品開発の動向を紹介する展示物として、漆器製品の調査及び収集候補資料を実見した。

調査員：外山徹

##### イ 越前打刃物 (2023年3月8日)

##### 越前打刃物会館 株式会社龍泉刃物

常設展リニューアル計画の内、世界的に評価の高い工芸品を紹介する展示物として、打刃物製品の調査・収集に向けた情報収集をした。

調査員：外山徹

### (2) 刑事部門

#### ① 科研費若手研究(B)26770230「転封大名の新領における「藩」構築過程の研究」(研究期間：2014～2023年度、研究代表者：日比佳代子 博物館事務室)

本課題は、館蔵の内藤家文書を素材として、江戸時代の大名の転封(幕命による大所領移動)に注目し、転封大名が領地・領民と一体性を有した「藩」を短期間で構築してゆく過程を明らかにするものである。2022年度は、内藤藩が東国の磐城平領から西国の延岡藩へ移動したことによって生じた変化を特別展「新しいお殿様—所替、その後—」として公開。その内容は図録として出版した。

### (3) 考古部門

#### ① 科研費基盤研究 (B) 19H01345「最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間—環境相互作用」(研究期間：2019～2022年度、研究代表者：島田和高 博物館事務室)

本課題では、長野県中部高地黒曜石原産地の標高1000～2000m付近における最終氷期の古環境と人類遺跡における黒曜石利用の復元をとおして、先史時代の黒曜石資源開発の諸相を究明することを目的としている。2020～2021年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大状況により研究計画の一部を2022年度まで繰り越している。研究期間の最終年度にあたる2022年度は、研究代表者が半年ほど療養するなど不測の事態も生じたが、6月には研究分担者が中心となって長野県入笠山大阿原湿原及び同南牧村矢出川湿原でボーリング調査を行った。調査で得られたコアからは14C年代測定により最終氷期MIS3終末にまで遡る約3万年の年代が得られ、2023年度にかけて花粉分析や大形植物遺体の分析が進められている。先史黒曜石利用の調査については、まず、回帰直線を用いた測定値の補正により、携帯

型蛍光X線分析装置(p-XRF)による原産地分析システムが依拠している判別図の正確度を向上した。11月及び2023年3月に霧ヶ峰周辺の諏訪市と茅野市に所在する旧石器時代石器群を対象とした化学組成分析及び原産地判別を行ない、成果の一部を論文発表した。

#### ②古墳時代の霞ヶ浦北岸における首長系譜の研究 報告書作成作業・整理作業

三味塚古墳出土武具の保存修理後の写真撮影と実測図作成作業、写真撮影を実施。出土埴輪の実測と図面作成を考古学専攻と共同で実施。玉里舟塚古墳出土埴輪の写真撮影、伝玉里舟塚古墳出土銅鏡の実測を実施。

#### (4) 博物館等機関への出張調査

尖石縄文考古館（資料分析、11月1～5日、2023年3月1～5日：島田）／伊万里市腰岳黒曜石原産地（調査指導、2023年2月20～21日：島田）／諏訪市博物館（資料分析、2023年3月20～25日：島田）／長崎大学（研究打合せ・分析装置視察、2023年3月29～30日：島田）／港区郷土資料館（東京都、展示視察、9月9日、忽那）／大田区立郷土資料館（東京都、展示視察、9月21日、忽那）／新宿歴史博物館（展示視察、10月21日、忽那）／東京美術倶楽部（東京都、購入候補資料調査、10月14日、忽那）／観音塚考古資料館（群馬県、展示視察、11月19日、忽那）／あいち朝日遺跡ミュージアム（愛知県、展示視察、11月9日、忽那）／さきたま史跡の博物館（埼玉県、展示視察、11月19日、忽那）／尚雅堂（東京都、購入候補資料調査、11月28日、忽那）／国立歴史民俗博物館（千葉県、展示視察、12月1日、忽那）／赤堀歴史民俗資料館、相川考古館（群馬県、展示視察、12月16日、忽那）／東京国立博物館（展示視察、2023年2月15日、忽那）／出光美術館（東京都、展示視察、2023年3月24日、忽那）／今城古代歴史館、広陵町文化財保存センター（大阪府・奈良県、展示視察、2023年3月28日、忽那）／春日井市民俗考古展示室、体感！しだみ古墳ミュージアム（愛知県、展示視察、2023年3月31日、忽那）延岡市内藤記念館（写真撮影、4月27、28日、日比）、延岡市延岡城・内藤記念博物館（オープニングセレモ

ニー、展示内覧会参加、9月22、23日、大六野耕作学長、千葉修身博物館長、日比）

## 2. 研究業績

### (1) 論文・著書

島田和高2023「中間スケールにおける先史時代人類による黒曜石原産地利用」『資源環境と人類』13：1-15

### (2) 学会等発表

2022年度なし。

### (3) 講演等

忽那敬三「未盗掘石棺と金銅製冠の発見・三味塚古墳の発掘」茨城県立歴史館講演会、2022年5月21日、講師、対面開催

忽那敬三『明治大学リバティアカデミー 明治大学博物館第68回考古学ゼミナール 古代常陸の雄・三味塚古墳の新発見』①「古墳は守られた・三味塚古墳の発掘調査とその実像」2022年7月8日、講師、コーディネーター、オンライン開催

忽那敬三『明治大学リバティアカデミー 明治大学博物館第69回考古学ゼミナール 大塚初重先生と明大考古学』③「市民とともに・大塚先生と明大博物館・友の会・アカデミー」2022年11月18日、講師、コーディネーター、対面とオンラインのハイブリッド開催

日比佳代子「江戸時代の捕者とお裁きの世界」千代田区日比谷図書文化館、2022年6月17日、講師、対面開催

日比佳代子「内藤家と磐城平城—延享4年の所替を素材に一」いわき市勿来関文学歴史館、2022年8月20日、講師、対面開催

日比佳代子「FMいわき いわきの歴史」、2022年11月3、10、17、24日、ゲスト、ラジオ出演

### (4) 受賞等

島田和高 2021年度日本旧石器学会賞 2022年6月4日 日本旧石器学会

### 3. 刊行物

2022年度なし。

### 4. 海外の研究者・留学生等への対応

5月13日 Karolina Jasien'ska 学習院大学大学院生 収蔵土偶の調査

11月11日 Andy Hutcheson イギリス・セインズベリー日本藝術研究所研究員 展示・収蔵資料見学

# V 収蔵資料

## 1. 資料収集

### (1) 資料数 (部門別)

		刑事	考古	商品	合計
受入	購入	4	0	0	4
	受贈	3	0	0	3
合計		7	0	0	7
前年度総数		215,213	218,657	5,147	439,017
今年度総数		215,220	218,657	5,147	439,024
					1,450
前場幸治瓦コレクション					10,725
総合計					451,192

※実測図・書籍・写真は含めない

### 【参考】年度別収蔵数 (部門別)

	刑事		考古		商品	
	購入	受贈	購入	受贈	購入	受贈
2017	1	4	1	0	23	20
2018	4	124※1	1	0	7	84
2019	11	0	1	0	24	1
2020	8	8	1	7	1	109
2021	2	0	1	7	0	14

※1：ほかに未整理文書8箱分あり

### (2) 購入資料一覧

種別・分類	資料名
絵画資料	大江戸鳥瞰図 山門豪傑双録
古文書 古典籍 古地図等	宗雲流繩之巻 加賀藩 江戸勤方心覚
考古遺物	—
商品資料	—

### (3) 受贈資料

部門	資料名
刑事	島田正郎関係資料・滝川博士調査団記録
	島田正郎関係資料・出雲学術調査記録
	島田正郎関係資料・仏像など調査記録
商品	—
考古	—

### (4) 寄託資料

#### ① 『刑罪大秘録』他3点

受託期間2022年4月1日～2027年3月31日

※5年ごとに更新

#### ② 故里見庫男氏所蔵文書 (3373点)

受託期間2022年4月1日～2025年3月31日 (福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体「いわき地域史学会」及び大学院文学研究科日本史専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた史料群。) ※3年ごとに更新

#### ③ 大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写 (458点)

受託期間2021年4月1日～2024年3月31日  
※3年ごとに更新

#### ④ 茨城県三味塚古墳出土青・短甲・小札

受託期間2020年4月1日～2023年3月31日  
※3年ごとに更新

### (5) 資料修復

#### ① 刑事部門

錦絵 9点 (酸性紙の裏貼り・台紙の除去、裏打ち、修補、フラットニング)

#### ② 考古部門

伝長野県伊那郡 鉄地金銅張鐘形鏡板 1点  
(保存処理)

### (6) 教材製作

2022年度は該当なし。

## 2. 資料整理

### (1) 商品部門

#### ① 資料台帳カード作成

旧14号館木製品・陶磁製品等

#### ② 保存容器作製

時田昌瑞ことわざコレクション

#### ③ 架蔵態勢の整備 (再梱包、収納箱ラベルの更新等)

#### ④ 資料原簿のデジタル化

## (2) 刑事部門

- ① 文学部日本史専攻教員・院生と共同での古文書調査
- ② 古文書の酸性封筒から中性紙封筒への交換、古文書資料の史料目録との照合による欠本確認
- ③ マイクロフィルム等二次資料整理
- ④ マイクロフィルム調湿剤・ガス吸着材入れ替え

## (3) 考古部門

- ① 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備
- ② 収蔵資料の所在確認
- ③ 矢島恭介資料の整理（点数・内容確認）
- ④ 諏訪市上ノ平、東京都下原・富士見町遺跡出土黒曜石製石器のXRF原産地分析

## 3. 資料記録

### (1) 撮影

#### ① 刑事部門

- ア 絵図「日向国延岡城石垣築直堀浚之絵図」
- イ 錦絵「大江戸鳥瞰図」
- ウ 錦絵「山門豪傑双録」

#### ② 考古部門

- ア 玉里舟塚古墳 矛を持つ武人埴輪
- イ 玉里舟塚古墳 武人埴輪下半身
- ウ 「火鏡」銘倭鏡(A219)
- エ 突線鈕式銅鐸(2012年度新収資料)
- オ 三味塚古墳横矧板鋌留短甲
- カ 三味塚古墳衝角付冑
- キ 三味塚古墳金銅製冠復元品(2021年度新収資料)

### (2) デジタルデータ化

#### ① 商品部門

- ア 学内共通フォーマットによるデータベース構築に向けて、既存の収蔵資料写真データの整理をおこなった（備前焼資料16点）。

#### ② 刑事部門

- ア 絵図「日向国延岡城石垣築直堀浚之絵図」
- イ 錦絵「大江戸鳥瞰図」
- ウ 錦絵「山門豪傑双録」

#### ③ 考古部門

- ア 原目山古墳発掘記録の大判資料
- イ 坂本万七写真フィルム：法隆寺関係（劣化が激しいもの）20点

#### ④ 2022年度博物館重点項目「オンラインミュージアムの拡充」

- ア Matterportを用いて常設展示室を3Dモデル化し、バーチャル常設展示室のコンテンツを新規に制作。
- イ バーチャル常設展示室のうち考古部門についてポップアップによる用語解説と展示解説の音声データの表示・再生機能を実装。
- ウ 2022特別展についてMatterportによる3Dモデルを制作し、バーチャル特別展示室コンテンツを新規に制作。
- エ Photogrammetryにより考古コレクションの3Dモデルを制作。Sketchfabのミュージアムアカウントを取得しサイトで公開。なお、パターン投影型3Dスキャンによる遺物計測も継続して実施。
- オ 刑事コレクションの大判絵図の高精細画像コンテンツを追加

## 4. 資料利用

### (1) 資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	その他	合計
一次資料 出品数	33点	554点	—	—	587点
レプリカ等 出品数	—	—	—	—	—
撮影	621点	31点	—	—	652点
掲載等	158点	256点	—	—	414点
合計	95件 812点	76件 841点	—	—	

### 《参考》年度別資料利用数推移

	出展数 (レプリカ内数)	撮影	掲載
2017	655 (6)	654	467
2018	748 (6)	1,254	1,279
2019	689 (2)	763	296
2020	790 (77)	133	527
2021	524 (4)	415	460
2022	587 (0)	652	414

## (2) 収蔵資料閲覧

	刑事部門		考古部門	商品
調査閲覧	古文書 1041点	マイクロ 235リール	48件	2点
人数	78名			

### 《参考》年度別資料閲覧数推移

	刑事			考古
	古文書(点)	マイクロ (本)	人数	件数
2016	1,644	308	131	46
2017	1,106	596	105	45
2018	2,131	137	103	27
2019	1,782	118	123	33
2020	31	20	12	15
2021	807	196	48	15

## (3) 貸出先・展覧会・出展資料一覧

### ① 刑事部門

#### ア 延岡城・内藤記念博物館

特別展「譜代大名 内藤家一その歴史と名宝一」・テーマ展「内藤家旧蔵の能狂言面～引き継がれてきた天下一の能面～」

貸出期間：2022年9月5日～11月15日

内藤家文書 1-1-118 再選御系譜 内藤家政順代迄 他 計33点

### ② 考古部門

#### ア 国立歴史民俗博物館

国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室（先史・古代）（大テーマⅠ「最終氷期に生きた人々」・大テーマⅡ「多様な縄文列島」・大テーマⅢ「水稻耕作のはじまり」において展示）

貸出期間：2022年4月1日～2023年3月31日  
長野県矢出川第1遺跡出土石器他 計28点

#### イ 岩手県立博物館

岩手県立博物館常設展示及び調査研究資料とするため。

貸出期間：2022年4月1日～2023年3月31日  
岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点

#### ウ 千葉県立中央博物館

千葉中央博物館歴史展示室（常設展）

期間：2022年4月1日～

佐倉市天神前遺跡第1号墳出土弥生式土器（複製）他 計3点

#### エ 市川市教育委員会

市立市川考古博物館 常設展示

貸出期間：2022年4月1日～2023年3月31日

佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器他 計80点

#### オ 茨城県立歴史館

令和4年度企画展1「ビフォー・アフター三味塚」茨城県立歴史館1階第3展示室

会期：2022年4月29日～6月19日

茨城県行方市勅使塚古墳出土重圏文鏡他 4点

#### カ 港区郷土歴史館

港区立郷土歴史館 常設展示

貸出期間：2022年4月1日～2023年3月31日

東京都芝公園出土須和田式壺形土器他 109点

#### キ 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・「石器文化の地域性」のコーナーに展示）

貸出期間：2022年7月1日～2023年6月30日

群馬県武井遺跡出土石器他 計330点

#### ク 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室

展示期間：2022年7月20日～11月20日

群馬県岩宿遺跡出土ナイフ形石器他 計39点

#### ケ 国立歴史民俗博物館

令和4年度企画展示「いにしえが、好きっ！—近世好古図録の文化誌—」

貸出期間：2023年2月1日～6月11日

宇佐高校校庭出土中広形銅戈他 計2点

#### コ 小田原市教育委員会

小田原市郷土文化館特別展「弥生の大集落中里遺跡」

会期：2022年10月22日～12月11日

神奈川県小田原市中里遺跡出土土器他 15点

#### サ 北区飛鳥山博物館

令和4年秋期企画展「縄文料理と弥生ごはん」

貸出期間：2022年10月下旬～12月中旬

京都府深草遺跡出土石包丁他 計3点

#### シ 国立歴史民俗博物館

国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室（先史・古代）（大テーマⅠ「最終氷期に生きた人々」・大テーマⅡ「多様な縄文列島」・大テーマⅢ「水稻耕作のはじまり」において展示）

貸出期間：2023年4月1日～2024年3月31日

- 長野県矢出川第1遺跡出土石器他 計28点  
 ス 石川県立歴史博物館  
 令和5年度春季特別展「碧の海道—古代の日本海交流—（仮称）」  
 会期：2023年4月29日～年6月11日  
 貸出期間：2023年4月10日～6月30日  
 伝福井県大石村出土流水文銅鐸（1号銅鐸）  
 他 計2点  
 セ 岩手県立博物館  
 岩手県立博物館常設展示及び調査研究資料とするため。  
 貸出期間：2023年4月1日～2024年3月31日  
 岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点  
 ソ 港区立郷土歴史館  
 港区立郷土歴史館 常設展示  
 貸出期間：2023年4月1日～2024年3月31日  
 東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計109点

#### (4) その他の資料利用

##### ① 刑事部門

- ア 楓錦会  
 佛教大学ハイフレックス講座オンライン授業に使用 北野新地文書 6-書状-L-174  
 当地由緒書之写

#### (5) 資料掲載利用一覧

##### ① 刑事部門

- 今川仮名目録 第29条 「NHK高校講座 日本史 第16回 『下剋上の社会と戦国大名』」（再放送） NHK  
 鑑札 株仲間札 「NHK高校講座 日本史 第23回 『幕藩体制の動揺と政治改革』」（再放送） NHK  
 地方測量之図 「NHK高校講座 日本史 第25回 『新しい学問の形成と化政文化』」（再放送） NHK  
 『牢内深秘録』 新入りのしゃくり 日比谷図書文化館広報誌「ポモータ」5月号、ホームページ、講演会告知チラシ  
 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 延岡城の現在の状況と有馬時代の状況を比較するCGを延岡市公式ホームページや市民フォーラム等で利用、「城山公園城跡景観等有識者会議」からの提言書に添付

する資料として利用(各報道機関に配布、延岡市ホームページに掲載)、延岡城の石垣マップを作成し見学用パンフレットとして配布、ホームページ掲載、延岡城内に設置予定の石垣説明板に利用

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 「THE JUDICIAL SYSTEM AND COURTS IN JAPAN」（裁判所ホームページにて動画配信）最高裁判所内藤家文書 1-6-193 慶応二年万覚書 他 「古林直基「第二次長州出兵における延岡藩」（『福岡大学大学院論集』54巻1号）福岡大学大学院論集刊行委員会

『徳川幕府刑事図譜』 磔刑の図 他 『大江戸24時間』 中央公論社

邪蘇宗門御改帳 延宝五年 『2023共通テスト直前対策問題集 日本史B』 河合出版

下野国安蘇郡閑馬村絵図 他 「「大学入学共通テスト 単元別問題集 日本史B」高等学校販売教材 駿台文庫 駿台文庫

今川仮名目録 教科書『日本史探究』教師用指導書付属DVD-ROM 東京書籍

内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 特別展「発掘された日本列島2022」展示パネル 宮崎県総合博物館

内藤家文書 1-6-34 宝永四年万覚書 他 令和4年度第2回企画展「徹底解説！磐城七浜捕鯨絵巻」（展示、パンフレット掲載）いわき市勿来関文学歴史館

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 「唐門復元工事記念パネル展示」小石川後楽園  
 御用提灯 高島幸次『古典落語の史層を掘る』和泉書院

『徳川幕府刑事図譜』 御様の図 「サンドウイッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん」（再放送）テレビ朝日

内藤家文書 3-23-10-34-1 岩城城修復願絵図 他 『磐城平城文献等調査報告書』（市公式ホームページへのPDFデータの掲載）いわき市購入寄贈資料一般5000-056 甲州北山筋湯村御検地屋敷水帳 『関孝和全集』 岩波書店

内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-36-11 宮崎郡御領分御引渡絵図 他 大宮地域の遺跡解説看板シリーズ14「宮崎役所跡」大宮地域まちづくり推進委員会地域文化部会

御仕置例類集（黒川真頼旧蔵本1-D-197）  
 他 「偉人・素顔の履歴書」 BS11  
 今川仮名目録 『歴史人』2022年10月号 ABCアーキ

内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-1-2 延岡城下ノ絵図 他 『(仮)延岡城・内藤記念博物館ミュージアムガイド』 延岡市

内藤家文書 3-11-42 服忌令 『山川 詳説日本史図録 探究版(仮)』 山川出版社

『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(凶悪犯のはしご捕り) 他 「偉人・素顔の履歴書」 BS11

時世のぼり凧 『小学館版学習まんが 日本の歴史』第12巻 小学館

往古うハなり打の図 須田努・清水克行『現代を生きる日本史』 岩波書店

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 「橋と土木展」 展示パネル 東京都建設局東部公園緑地事務所

萩原龍夫旧蔵資料の概要調査時写真 他 東アジア民族文化学会研究報告スライド

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 「THE TIME」 TBSテレビ

常設展 御用提灯 『週刊現代』令和4年10月8日号 講談社

武家諸法度 他 『テーマ別だから政治も文化もつかめる 江戸時代』 朝日新聞出版

内藤家文書 3-16-201 乍恐以書付奉願上候 『港区史 資料編』第10-1、Webサイト「デジタル版 港区のあゆみ」 港区

内藤家文書 3-23-11-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 イベント「のべおかキャッスル・ハッスル2022」において地図として使用

武家諸法度 『歴史人』2023年1月号 ABCアーキ

今川仮名目録(複製) 他 『しずおか歴史探検 静岡市歴史博物館ガイドブック』 静岡市歴史博物館

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 『隔週刊 必殺シリーズDVDコレクション』第72号 デアゴステイーニ・ジャパン

地方測量之図 『社会4年デイリーサピックス 440-08』 日本入試センター

内藤家文書 3-23-10-34-10-1 奥州磐城平城絵図 他 企画展「磐城平城の絵図と城下の年中行事」(展示、展示会図録掲載) いわき市暮らしの伝承郷

『徳川幕府刑事図譜』 磔刑の図 『Hitomi Omata Rappo 「Muerte en la cruz; La beatificación de los veintiséis mártires de Nagasaki (1627) y la iconografía de la crucifixión (十字架上の死:長崎二十六殉教者の列福と十字架の図像)」(インターネット掲載) Barrocco Ibero Americano

『徳川幕府刑事図譜』 磔刑の図 小俣ラポー 日登美『殉教の日本—近世ヨーロッパにおける宣教のレトリック』 名古屋大学出版会

内藤家文書 内藤政道氏寄贈1-6-3 江戸御上屋敷絵図 「歴史探偵 将軍と江戸城(仮題)」 NHK

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 「小石川後楽園文化財指定100周年記念行事 パネル展示」 小石川後楽園

長宗我部氏掟書 「偉人・素顔の履歴書 長宗我部元親編」 BS11

内藤家文書 3-23-11-35-15 日向国延岡御本城要害絵図 延岡城内に設置予定の石垣説明板に利用

地方測量之図 他 NHKデジタル教材「NHK for school」

内藤家文書 1-6-81 宝暦四年三月万覚書 他 大賀郁夫「近世延岡藩における「帳外」について」(『宮崎公立大学人文学部紀要』第30巻第1号) 宮崎公立大学

地方測量之図 『台東区歴史・文化テキスト』第四版 台東区教育委員会

板倉家文書 「亀山市史」ウェブ版 亀山市

萩原龍夫旧蔵資料カード16-26、12-40 「渡部圭一・加藤秀雄「研究者旧蔵資料のデジタルアーカイブ化の課題」 アジア民族文化学会

内藤家文書 増補・追加5-(2)充真院(繁子)

関係(I)-11 源氏物語 他 神崎直美「知的好奇心豊かな大名夫人とのひととき—「近世の日本史」から」(『わたしたちのりべラルアーツ』) 城西大学リベラルアーツ研究会

内藤家文書 3-23-11-35-13 日向国延岡城石垣築直堀浚之絵図 他 『延岡城跡石垣調査報告書』

内藤家文書 3-23-11-35-15 日向国延岡御本城要害絵図 他 『延岡城北櫓跡発掘調査概要報告書』

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 「THE JUDICIAL SYSTEM AND COURTS IN JAPAN」(裁判所ホームページにて動画配信) 最高裁判所名和コレクション 鎖鎌(石見守直次作) ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵 力と美」

鑑札 株仲間札 『隔週刊 必殺シリーズDVDコレクション』第80号 デアゴステイーニ・ジャパン

『徳川幕府刑事図譜』 切腹の図 webマガジン「nippon.com」 ニッポンドットコム

『**牢内深秘録**』 **新入りのしゃくり** 「先人たちの底力 知恵泉」高野長英編 NHK Eテレ

## ② 考古部門

**群馬県武井遺跡出土尖頭器** 『定期テスト出るナビ中学歴史 改訂版』紙版・電子版 学研プラス

**京都府深草遺跡出土石包丁** 『2022年度第1回全統記述模試問題 地理歴史・公民(日本史)』河合塾

**石神井川から望む茂呂遺跡 他** 文化財シリーズ第100集『時代を紡ぐ』総集編 板橋区教育委員会

**流水文銅鐸(明大1号銅鐸) 他** 大学入試シリーズ『明治大学(全学部統一入試)』2023年版 教学社

**群馬県岩宿遺跡A地点の発掘調査写真(1949年)** 『ここまで解けた 縄文・弥生という時代』KAWADE夢新書シリーズS436 河出書房新社

**東京都利島大石山遺跡出土石皿・すり石 他** 『2023共通テスト総合問題集 日本史B』河合出版

**東京都茂呂遺跡1951年発掘調査断面図** 伊藤健「東京都茂呂遺跡の編年的位置づけ」『日本旧石器学会第20回研究発表・シンポジウム予稿集』

**行方市三味塚古墳調査時画像** 令和4年度企画展1「ピフォー・アフター三味塚古墳」における掲示 茨城県立歴史館

**京都府京都市西区深草遺跡出土石包** 『2023共通テスト対策実戦問題集 日本史B』駿台文庫

**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他** 『2022年度夏期講習(高3・高卒生対象)関関同立大日本史』河合塾

**小黒谷長者原遺跡出土土器実測図 他** 「『荏田式』土器の再検討」『利根川』44 利根川同人事務局

**火竟銘鏡(申請者撮影)** 新井悟「『火竟』觀念の伝来とその造形」『人・墓・社会 日本考古学から東アジア考古学へ』土生田純之先生退職記念事業会編 雄山閣

**神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器** 『8月ゼミ 小6社会』塾用プリント ティエラコム

**常設展示室 考古部門 展示風景** 「人事のアカデミア」『Works』リクルートワークス研究所

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** 『るるぶ縄文』JTBパブリッシング

**京都府京都市西区深草遺跡出土石包丁** 河合塾 マナビス(高校生対象)『共通テスト完全攻略 日

本史B』(2022) 河合塾

**江戸駿河台の旗本屋敷 他** 『季刊考古学・別冊38 日本列島の人類史と製塩』雄山閣

**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器** 大学入試シリーズ『専修大学(全学部統一入試)』2023年版 世界思想社教学社

**神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他** 『2022年度(高卒生対象)第2回共通テスト対応力トレーニングテスト地理歴史(日本史)』他 河合塾

**群馬県笠懸町岩宿遺跡A地点の発掘調査** 『学習まんが 日本の歴史9巻』小学館

**弥生土器(新田山遺跡)実測図(申請者作成)** 植木雅博「千葉市の弥生土器—新田山遺跡—」『千葉いまむかし』

**弥生土器(出流原遺跡、2号墓坑及び遺構外破片資料)実測図(申請者作成)** 植木雅博「中里遺跡の『南東北系』とされる弥生土器について」『西相模考古』

**京都府京都市西区深草遺跡出土石包** 『2023パックV 日本史B』(第2回) 駿台文庫

**明治大学博物館 特別展示室 企画展「古代常陸の雄・三味塚古墳」展示風景** 行方市主催の夏休み企画スタンプラリー及びYouTube動画に掲載 ヒラマ写真製版

**群馬県笠懸町岩宿遺跡A地点の発掘調査** オンライン交流イベント「カフェde考古学」チラシ 日本考古学協会

**神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他** 『2022年度(高3生対象)第2回共通テスト対応力トレーニングテスト地理歴史(日本史)』他 河合塾

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 『2022年度 考える力・プラス中学受験講座 6年生 中学入試合格テキスト 1月号 共通』ベネッセコーポレーション

**京都府京都市西区深草遺跡出土石包丁** 河合塾 ONE 日本史『基本事項解説』(映像授業) 河合塾

**京都府京都市西区深草遺跡出土石包丁** 『2023年共通テストK-パック』地理歴史(日本史B) 河合出版

**群馬県武井遺跡出土尖頭器** 『高校入試出るナビ社会 改訂版』紙版・電子版 学研プラス

**岩手県雨滝遺跡出土石鏃** 『2022年度冬期テキスト「共通テスト日本史」』代々木ゼミナール

**京都府京都市西区深草遺跡出土石包丁** 『2022年度冬期講習(高3・高卒生対象)「共通テスト攻

略 日本史Bテスト』 河合塾

**神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他** 『2022年度直前講習(高3生・高卒生対象)「立命館大日本史突破テスト」』 河合塾

**長野県南牧村矢出川第1遺跡出土細石刃・細石刃核(申請者撮影)** 工藤雄一郎・馬場悠男・石井礼子『復元イラストからみる人類の進化と旧石器人・縄文人の暮らし』 雄山閣

**高知県不動ヶ岩屋遺跡出土石鏃 他** 『要点マスター 日本史探究』(紙媒体・DVD-ROM) 東京書籍

**山木遺跡第1次発掘調査時写真(1950年)** 「山木遺跡の発掘調査をたどる」展示パネル,配布チラシ 伊豆の国市郷土資料館

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 『2022年度全統記述高2模試問題 地理歴史・公民』 河合塾  
栃木県篠山貝塚縄文式深鉢形土器 『Ⅲ期ゼミテキスト&テスト 小6社会』(塾用問題集、テスト含む) 学書

**宮城県山王岡遺跡出土玉類(申請者撮影)** 三澤裕之「緑色石英を用いた装身具製作について〈山形県材木遺跡〉」(シンポジウム「ヒスイ・コハク―縄文社会を彩る貴石―) 発表資料

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** JALグループ機内誌『SKYWARD 2023年1月』 日本航空

**下野国分寺文字瓦「国分寺」(前場幸治瓦コレクション)** 『墨書土器と文字瓦―出土文字史料の研究―』表紙デザイン 八木書店出版部

**埴輪武装男子立像(群馬県太田市出土、シアトル美術館所蔵)** 大澤正吾「シアトル美術館所蔵の『埴輪 挂甲の武人』調査」『国宝 埴輪 挂甲の武人修理調査報告(仮)』他 東京国立博物館

**群馬県岩宿遺跡出土打製石器 他** 『2023年度中学(中1生対象)歴史I』 河合塾

**群馬県笠懸町岩宿遺跡A地点の発掘調査 他** 企画展「洞窟と考古学者」図録・パネル掲載 福井洞窟ミュージアム

**京都府深草遺跡出土石包丁 他** 全統模試分析システムKei-Navi 河合塾

**愛知県豊橋市五貫森貝塚出土磨製石器** 『さなる式 歴史I』塾用問題集 学書

**京都府京都市西区深草遺跡出土石包丁 他** 全統模試分析システムKei-Navi 『2020年度第1回全統記述模試問題 地理歴史・公民(日本史)』他 河合塾

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** 『2023年度

入試過去問徹底解説 上巻/8月号/長崎』 ベネッセコーポレーション

**神奈川県月見野遺跡出土尖頭器 他** 全統模試分析システムKei-Navi 「2021年度高2プライムステージ 地理歴史『日本史B』」他 河合塾

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 『2023年度I期(高2生対象)「高2日本史」』 河合塾

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 『2023年度基礎シリーズ(高卒生対象)「完全習得タイム日本史」』 河合塾

**伝福井県大石村出土流水文銅鐸(1号銅鐸)** 令和5年度春季特別展「碧の海道―古代の日本海交流―(仮称)」展覧会図録 石川県立歴史博物館

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** 『土偶大事典(仮)』 柏書房

**茨城県行方市三昧塚古墳調査時画像** 小澤重雄「いばらきの古墳」ビデオ講座(公益財団法人常陽藝文センター)

**群馬県岩宿遺跡出土石器(岩宿I石器文化)** 中公ムック 歴史と人物14『目からウロコ 日本古代の新常識(仮称)』 中央公論新社

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他** 『2023年度(高3・高卒生対象)「日本史写真資料集」』 河合塾

**千代廃寺出土「大伴五十戸」銘軒丸瓦** 『厚木市史 古代通史編』 厚木市

**千葉県江原台遺跡出土山形土偶** 縄文ZINE『土偶を読むを読む』 文学通信

**流水文銅鐸(明大1号銅鐸) 他** 大学入試シリーズ『明治大学(全学部統一入試)』2024年版 教学社

**埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器** 大学入試シリーズ『専修大学(全学部統一入試)』2024年版 教学社

**岩手県雨滝遺跡出土石匙 他** 『第1回学力テスト(日本史B)』 代々木ゼミナール

**明治大学博物館 特別展「古代常陸の雄・三昧塚古墳」展 展示風景** 「茨城県三昧塚古墳出土品の保存修理」『元興寺文化財研究所 研究報告2022』 元興寺文化財研究所

**神奈川県月見野遺跡 遺跡調査風景** 学習センターだより「まなびの風」 大和市つきみ野学習センター

**群馬県岩宿遺跡出土打製石斧** 『学研まんがNEW世界の歴史』1巻「世界と日本」 株式会社Gakken

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 「河合塾  
基本解説映像日本史」 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2023年度 考  
える力・プラス中学受験講座 5年生 中学入試授  
業テキスト8月号 共通』 ベネッセコーポレーシ  
ョン

夏島貝塚貝層断面写真 谷口 肇『日本史のなか  
の神奈川県（仮）』 山川出版社

千葉県市川市丸山遺跡全景写真 他 「みどり  
のふぉーらむ」189号 市川市緑の市民フォーラム

## 5. 図書

### (1) 蔵書数

図書	全所蔵冊数	(冊)	131,531
	和	(冊)	99,040
	洋	(冊)	1,299
	製本雑誌	(冊)	31,262
雑誌	全所蔵冊数	(タイトル)	3,043
	和	(タイトル)	2,989
	洋	(タイトル)	53

### (2) 購入・寄贈数

#### ① 図書受入数

総受入冊数		(冊)	1,584
図書受入冊数 ※製本雑誌を含む	購入	和	(冊) 51
		洋	(冊) 0
	寄贈	和	(冊) 1,520
		洋	(冊) 13

#### ② 雑誌継続タイトル数

総受入種類数		(タイトル)	285
雑誌受入種類数	和	(タイトル)	284
	洋	(タイトル)	1

※2015年度統計より図書館蔵書システムからの出力による数値を使用。

# VI 統計・一覧・資料

## 1. 入館データ

### (1) 入館状況

#### ① 開館日数・時間

ア 休館日

- ・ 8月10日～16日（夏季休暇）
- ・ 12月26日～1月7日（冬期休暇）

イ 開館時間 月曜～金曜：10:00～17:00、土曜：10:00～12:30

ウ 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	26	23	26	26	20	22	26	24	21	18	22	27	281

エ 月別入館・利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展	1,847	1,855	2,121	2,556	4,260	1,847	3,317	3,373	2,003	1,668	2,364	2,887	30,098
特別展	1,442	1,660	1,847	2,353	3,085	0	2,221	3,090	1,330	458	2,459	1,909	21,854
図書室	201	294	422	346	190	316	434	440	366	178	100	127	3,414
教室等利用	0	0	0	0	0	0	70	57	47	38	65	73	350
計	3,490	3,809	4,390	5,255	7,535	2,1635	6,042	6,960	3,746	2,342	4,988	4,996	55,716

《参考》年度別入館・利用者数

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2004～2022
常設展示室	63,036	64,379	65,118	2,553	10,360	30,098	778,695
特別展示室	29,145	18,649	41,855	1,052	8,138	21,854	348,284
図書室	4,851	5,730	5,057	1,183	3,069	3,414	89,876
教室等利用	3,160	3,780	3,084	0	0	350	31,285
計	100,192	92,538	115,114	3,707	21,567	55,716	1,248,140

#### ② 特別展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
校友山脈Ⅱ部 神田学生街 140年の今⇔昔	2月3日～4月10日	55日間	3,147名
新しいお殿様—所替・その後—	10月14日～12月14日	51日間	6,641名

#### ③ 主催・共催展・その他の展覧会入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
新収蔵・収蔵資料展2022	4月18日～5月16日	21日間	1,680名
こ・と・わ・ぎ—風刺とユーモア	5月21日～6月25日	31日間	2,610名
古代常陸の雄・三味塚古墳	7月8日～8月7日	27日間	5,438名
収蔵庫のとおき—知られざる逸品の数々—	1月28日～3月11日	35日間	4,020名

## (2) 団体見学

### ① 月別集計一覧

#### ア 学校団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	2	6	8	6	7	10	18	15	6	14	5	97
人数	0	73	85	189	157	238	250	537	441	202	158	95	2,425

#### イ 一般団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	0	0	0	1	1	5	3	5	3	5	5	28
人数	0	0	0	0	43	10	69	27	101	88	116	73	527

### ② 団体一覧

4月：該当なし／5月：共立女子大学ビジネス学部中山ゼミ、水戸葵陵高等学校／6月：明治学院中学3年生、神田女学園中学・高等学校、聖ウルスラ学院英智高等学校、共立女子大学ビジネス学部小川ゼミ、日本大学文理学部哲学科長綱ゼミ、佐野市立出流原小学校6年生／7月：飛鳥未来きずな高等学校お茶の水キャンパス、獨協大学法学部綱谷ゼミ、埼玉県立越谷北高等学校2年生、立志舎、東村山市立東村山第二中学校、明治大学附属中野八王子中学高等学校 中1～高3、明治大学附属明治中学校、葛飾区立青戸中学校／8月：東京都立足立西高等学校1～3年、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会新聞部門大会、山形市立商業高等学校、千葉県立稲毛高等学校 進路対策委員会、宇都宮短期大学附属高等学校2年生、東葉高等学校3年生、東京都立松原高等学校1年生／9月：明治大学・山形大学・名古屋短期大学合同ゼミ、国分寺市立第一中学校2年生、明治学院中学校、茨城県立水海道第一高等学校1年生、調布市立神代中学校、相馬市立中村第一中学校、NHK学園くにたちオープンスクール、放送大学学園／10月：千葉県立佐原高等学校PTA、東京韓国学校、島根県立松江東高等学校2年生、鶯谷中学校、東京都足立区地域学習団体花畑四季の会、千葉県立匝瑳高等学校1年生、江東区立深川第四中学校2年生、東京韓国学校、共栄学園高等学校、群馬県立高崎女子高等学校1年生、横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校、専修大学松戸中学校3年生、宮前区小さな歩く会、明治大学附属明治高等学校・中学PTA、テイケイトレード／11月：広島国際学院高等学校1・2年生、千葉県立船橋啓明高等学校1年生、山梨県立富士河口湖高等学校1年生、名城大学、まちの駅名水「弁天池」の駅、山形県南陽市立宮内中学校3年生、東海大学菅生高等学校、湘南学園高等学校、千葉県立流山おおたかの森高等学校1年生、歴史散歩会、武蔵越生高等学校、大宮開成高等学校、東京立正短期大学、桐一会、富山県立八尾高等学校2年生、駿河台大学法学部、練馬区立光が丘第三中学校2年生、埼玉県立不動岡高等学校、淑徳大学人文学部歴史学科、福生市立福生第一中学校、わせがく高等学校／12月：筒台会東京支部、「道灌びいき」の会、一般社団法人ごろ夢、日本大学法学部、品川翔英中学校、宮崎県立延岡星雲高等学校 2年生、熊本県立宇土高等学校、花咲徳栄高等学校1年生、群馬県立桐生清桜高等学校1年生、東京都東久留米市立西中学校、宮崎県立日向高等学校2年生、NPO法人東京シティガイドクラブ山の手グループ、明治大学商学部清水ゼミ、みのり会、沖縄県立石川高等学校1～2年生、二松学舎大学附属高等学校、東野高等学校1～3年生、三輪田学園高等学校1～2年生、広島県立高陽高等学校2年生、明治大学経営学部薩摩ゼミ／2023年1月：千代田区ウォーキングの会、NPO法人東京シティガイドクラブ山の手グループ、歴史紀行東京3日間、八王子市立陶鎔小学校6年生、府中市立府中第一中学校2年生、足立区立鹿浜菜の花中学校2年生、板橋区立西台中学校、国土舘大学博物館学講座、慶應義塾大学女子高等学校／2月：越谷市立大相模中学校、世田谷区立千歳中学校、練馬区立三原台中学校1年生、中央区立佃中学校2年生、中野区立北中野中学校一学年、板

橋グリーンカレッジOB会、葛飾区立立石中学校1年生、西武文理大学松澤ゼミ・遠藤ゼミ、足立区立西新井中学校2年生、台東区立浅草中学校、越谷市立北陽中学校2年生、足立区立第七中学校、トラムチ大学同窓会、足立区立第十二中学校、山梨学院大学法学部原ゼミ、白鷗大学茂木ゼミ、明大卒業(S47年)法学部法律学科11組一同、KGTWC会、江東シルバー共助会／3月：クラーク記念国際高校所沢キャンパス、胎内市立乙中学校、船橋市退職校長会、静岡県立韮山高等学校文芸郷土研究部、大分東明高等学校社会部、NPOイスパJP、株式会社Linc、日本女子大学附属中学校、NHK文化センター、明治大学工学部機械工学科昭和40年卒業クラス会

### (3) 視察・研修受入

#### ① 受入団体数・参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	—	—	43	—	1	1	—	—	—	—	45
人数	—	—	—	—	—	—	2	2	—	—	—	—	4

#### ② 団体名一覧

全国高等学校総合文化祭新聞部門（8月2日）、東京都立桜修館中等教育学校職場体験(10月27日～28日)、東京都立白鷗高等学校 附属中学校職場体験(11月8日～9日)

### (4) 図書閲覧サービス

#### ① 図書開室時間

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため、開室時間帯を変更。オンライン予約制。

月～金曜日：10:00～13:00／13:30～16:30

土曜日：2022年7月2日まで10:00～12:30、7月9日～10月15日まで10:00～12:30／12:30～15:00、2022年10月22日より10:00～13:00／13:00～16:00。

#### ② 閲覧者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生・大学院生	126	230	322	265	127	236	343	347	296	134	37	60	2523
明大教職員	6	6	16	18	9	19	9	15	8	1	11	12	130
友の会	0	4	2	1	5	4	3	7	8	3	1	0	38
リパティ アカデミー会員	0	0	1	2	3	1	7	3	2	5	0	0	24
聴講生	1	2	0	0	0	0	2	0	4	0	1	1	11
校友	2	2	4	3	1	5	1	1	1	2	5	2	29
他大学学生	33	17	29	25	29	28	34	55	32	11	14	12	319
一般	26	21	25	22	11	18	28	10	12	17	27	35	252
明大その他	7	12	23	10	5	5	7	2	3	5	4	5	88
合計	201	294	422	346	190	316	434	440	366	178	100	127	3414
開室日数	25	23	26	26	18	22	26	23	21	18	22	26	276
1日平均 (人)	8.0	12.8	16.2	13.3	10.6	14.4	16.7	19.1	17.4	9.9	4.5	4.9	12.4

## 2. 組織・構成

### (1) 博物館構成員

#### ① 館長・副館長

任期：2020年4月1日～2024年3月31日

役職	氏名	所属	専門
館長	千葉修身	商学部教授	会計学
副館長	宮本真也	情報コミュニケーション学部教授	科学の社会学、批判的社会理論

#### ② 専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会連携部長		関谷俊郎	
博物館事務長		市川園子	
庶務担当		福田厚史	
学芸員	外山 徹	商品部門	博物館学／地域文化論
学芸員	島田和高	考古部門	考古学
学芸員	日比佳代子	刑事部門	日本近世史
学芸員	忽那敬三	考古部門	考古学

#### ③ 非常勤職員

	氏名	担当
短期嘱託職員	織田 潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	八重樫鈴 ※～9/30	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	石井浩美 ※10/1～	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	戸部瑛理	商品部門担当
短期嘱託職員	矢口結菜	刑事部門担当
短期嘱託職員	竹内理来	考古部門担当
短期嘱託職員	南雲 茜	
短期嘱託職員	杉本茉織	アーカイブ、広報担当

### (2) 博物館運営委員会

#### ① 運営委員会委員

任期：2021年4月1日～2023年3月31日

委員長	千葉修身	館長／商学部教授
副委員長	宮本真也	副館長／情報コミュニケーション学部教授
	小林史明	法学部専任講師
	菊池一夫	商学部教授
	山内健治	政治経済学部教授

	落合弘樹	文学部教授
	駒見和夫	文学部教授
	野尻泰弘	文学部准教授
	若狭 徹	文学部准教授
	本多貴之	理工学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	川島高峰	情報コミュニケーション学部准教授
	関谷俊郎	学術・社会連携部長
	外山 徹	博物館学芸員
	島田和高	博物館学芸員
	日比佳代子	博物館学芸員
	忽那敬三	博物館学芸員

#### ② 資料評価分科会

任期：2021年4月1日～2023年3月31日

座長	野尻泰弘	文学部准教授
	菊池一夫	商学部教授
	若狭徹	文学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	外山 徹	博物館事務室
	島田和高	博物館事務室
	日比佳代子	博物館事務室
	忽那敬三	博物館事務室

### (3) 研究調査員

任期：2022年4月1日～2023年3月31日

高橋昭夫	商学部教授 (商品学)
上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
牛米 努	文学部兼任講師 税務大学校租税史料室研究調査員
山路直充	市立市川考古博物館学芸員
金子 智	株式会社乃村工藝社

### (4) 作業部会

#### ① 博物館・大学院商学研究科・商学部連携「伝統的工芸品の経営とマーケティングプロジェクト」推進部会

座長	高橋昭夫	商学部教授 (商品学)
	菊池一夫	商学部教授 (商業経営論)
	上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
	外山 徹	博物館学芸員

## (5) 明治大学博物館友の会2022年度役員

相談役	千葉修身	宮本真也	
顧問	熊野正也	杉原重夫	
会長	野口 淳		
副会長	村井孝行 (会計・総務 兼務)	橋本秀夫 (行事兼務)	
理事	鈴木 弘	林 信雄 (広報)	
運営委員 (総務)	新井正子		
運営委員 (会計)	片桐達雄		
運営委員 (行事)	松村祐安	桐生邦子	堀井郁子
運営委員 (広報)	望月桂一郎		
運営委員 (図書室管理員 副代表)	新井正子		
運営委員 (展示解説員副 代表)	渡辺やす子		
図書室管理員 代表	木戸孝義		
展示解説員代表	林 信雄		
監事	支倉紀代美	松本慶三	
分科会	古文書を読む会	橋本秀夫	
	平成内藤家文書研究会	中村光子	
	工芸の会	平井孝雄	
	旧石器・縄文文化研究会	杉山 昭	
	弥生文化研究会	岡本直和	
	古文書の基礎を学ぶ会	平井孝雄	
	東アジアの中の古代日本研究会 (2023年3月末を以て解散)	山本廣一	
	前方後円墳研究会	細川恵司	
	「倭国から大和」を学ぶ会	野崎征彦	
	古代東北アジアと日本研究会	遠藤典夫	
飛鳥・藤原を学ぶ会	荒木 茂		

## (6) 各種会議開催日

### ① 博物館運営委員会

ア 第1回 オンライン会議 6月22日

審議事項

(1) 2023年度教育・研究に関する年度計画書等の提出について

報告事項

イ 第2回 メール審議 27月28日付議(8月5日審議期限)

審議事項

(1) 2023年度全学共通総合講座【機関企画講座(タイプB)】の開講申請について

ウ 第3回 メール審議 9月9日付議(9月16日審議期限)

審議事項

(1) 博物館アルバイト労務時間単価の改正について

(2) デジタルアーカイブシステム導入に係る検討結果について

エ 第4回 オンライン会議 10月25日

審議事項

(1) 2023年度博物館予算編成資料について

報告事項

(1) 土曜開館時間の延長について

(2) 公益財団法人図書館振興財団2023年度振興助成事業への申請について

オ 第5回 オンライン会議 2023年3月17日

審議事項

(1) 2022年度事業報告について

(2) 2023年度事業計画について

(3) 2023年度博物館研究調査員の委嘱について

報告事項 (1) 2023年度博物館運営委員会委員について

### ② 博物館運営委員会資料評価分科会

第1回 11月30日付議(~8日審議期限)

※メール審議により開催

### ③ 「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会

第1回 7月5日

第2回 12月9日

第3回 2023年1月24日

※いずれもオンライン会議により開催

### ④ 博物館・友の会連絡会議

第1回 5月20日

第2回 9月30日

第3回 11月18日

第4回 2023年2月24日

※いずれもオンライン会議により開催

### 3. 予算・決算

#### (1) 2022年度事業費予算・決算

##### ① 予算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費			合計
			特別展	ONLINE ミュージアム	首長系譜 共同研究	
兼務職員人件費	648,000	0	0	0	0	648,000
福利費	14,000	0	0	0	0	14,000
修繕費	50,000	0	0	0	0	50,000
旅費交通費	913,000	0	80,000	0	250,000	1,243,000
業務委託費	2,580,000	0	3,508,000	1,777,000	0	7,865,000
保険料	160,000	0	100,000	0	0	260,000
準備品	390,000	0	0	0	150,000	540,000
その他の消耗品費	1,463,000	0	0	159,000	104,000	1,726,000
印刷製本費	1,100,000	0	1,840,000	0	0	2,940,000
通信費	88,000	0	0	0	0	88,000
郵便費	22,000	0	0	0	0	22,000
運搬費	490,000	0	0	0	0	490,000
広告費	160,000	0	0	0	0	160,000
支払手数料	245,000	0	50,000	0	0	295,000
会合費	96,000	0	0	0	0	96,000
公租公課	34,000	0	0	0	0	34,000
教育研究用機器備品費	2,973,000	0	0	0	0	2,973,000
合計	11,426,000	0	5,578,000	1,936,000	504,000	19,444,000
前年度予算額	11,423,000	0	5,478,000	1,936,000	506,000	19,343,000
増・減 (▲)	3,000	0	100,000	0	▲ 2,000	101,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算追加、振替は反映していない

※ONLINEミュージアムの前年度予算額は考古多視点のアーカイブ、大学博物館交流事業の合計額を入れている

※首長系譜の前年度予算額は伝統工芸マーケティングの額を入れている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

② 決算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費			合計
			特別展	ONLINE ミュージアム	首長系譜 共同研究	
兼務職員人件費	309,075	156,713	5,750	0	0	314,825
福利費	0	0	0	0	0	0
修繕費	221,760	0	0	0	0	221,760
旅費交通費	873,153	22,180	0	0	123,253	996,406
業務委託費	3,273,469	158,743	2,345,805	1,540,000	0	7,159,274
保険料	29,160	79,600	0	0	0	29,160
準備品	704,620	0	599,060	85,460	167,500	1,556,640
その他の消耗品費	3,625,340	325	739,284	11,495	64,404	4,440,523
印刷製本費	1,024,250	25,540	1,903,110	0	0	2,927,360
通信費	87,120	0	0	0	0	87,120
郵便費	5,277	370	0	0	0	5,277
運搬費	445,884	712,085	0	0	0	445,884
広告費	30,000	0	0	0	0	30,000
支払手数料	13,750	0	27,485	153,230	93,714	288,179
会合費	54,456	0	0	0	0	54,456
公租公課	30,000	0	0	0	0	30,000
雑費	16,500	0	0	0	0	16,500
教育研究用機器備品費	971,122	0	0	0	0	971,122
合計	11,714,936	1,155,556	5,620,494	1,790,185	448,871	19,574,486
前年度決算額	11,589,673	1,653,740	5,940,279	2,295,470	47,000	19,872,422
増・減(▲)	125,263	▲ 498,184	▲ 319,785	▲ 505,285	401,871	▲ 297,936

※予算額を超える執行は年度途中で予算追加、振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

※ONLINEミュージアムの前年度決算額は考古多視点のアーカイブ、大学博物館交流事業の合計額を入れている

※首長系譜の前年度決算額は伝統工芸マーケティングの額を入れている

※基金事業費は、籠谷典子「知の公開」ミュージアム資金による

## (2) 2022年度収入

科目：その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	610,923
文献複写・資料代	10,000	80,860
撮影・掲載料	200,000	341,435
特別展入場料	10,000	0
ミュージアムグッズ売上	410,000	607,705
その他	50,000	21,386
合 計	1,280,000	1,662,309
前年度予算決算額	1,280,000	1,205,212
増・減 (▲)	0	457,097

#### 4. 施設概要・見取り図

##### (1) 施設概要

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86㎡	243.90㎡
	事務室	B1	F	94.06㎡	
	会議室	B1	J	45.12㎡	
	倉庫	B1	L	61.86㎡	
教育普及部門	図書室	B1	G	145.04㎡	523.22㎡
	書庫	B1	H	176.03㎡	
	閲覧室	B1	I	35.95㎡	
	博物館教室	B1	B	87.94㎡	
	体験学習室	B1	A	44.31㎡	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95㎡	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19㎡	785.73㎡
	大学史展示室	B1	U	115.20㎡	
	特別展示室	B1	R	173.34㎡	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03㎡	332.76㎡
	作業室1	B1	V	60.80㎡	
	作業室2	B1	W	129.70㎡	
	展示準備室	B1	K	50.23㎡	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90㎡	649.11㎡
	一時保管室	B2	H	77.35㎡	
	収蔵室1	B2	B	271.46㎡	
	収蔵室2	B2	C	147.37㎡	
	特別収蔵室	B2	I	23.28㎡	
	写真保管室1	B1	S	56.68㎡	
	写真保管室2	B1	T	34.07㎡	
	合計				2,534.72㎡



## 5. 規程

### 明治大学博物館規程

1991年10月31日制定  
1991年規程第2号

(趣旨)

**第1条** この規程は、明治大学学則第64条第2項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

**第2条** 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

**第3条** 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 本大学における教育・研究の成果を発信する展示会、講演会、シンポジウム等の開催
- (7) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (8) 生涯教育の振興及び学習支援
- (9) 分館の設置及び運営
- (10) その他必要と認められる事業

(館長)

**第4条** 博物館に、館長1名を置く。

- 2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。
- 3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により理事会が任命する。
- 4 館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 館長は、再任されることができる。
- 6 館長は、学部、大学院、付属学校又は付属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

**第5条** 博物館に、副館長1名を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、理事会が任命する。
- 4 副館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

**第6条** 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

- 2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職1名並びに学芸員及び職員若干名を置く。
- 3 学芸員は、第3条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

**第6条の2** 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

- 2 研究調査員は、本大学の教職員及び学外の有識者から、館長が次条に規定する博物館運営委員会の同意を得て委嘱する。
- 3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館運営委員会)

**第7条** 博物館の運営に関して、次に掲げる事項について審議するため、博物館に博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 第3条に掲げる事業及びその事業計画に関する事項
  - (2) 博物館の管理・運営に関する事項
  - (3) 予算及び決算に関する事項
  - (4) その他委員会が必要と認めた事項
- 2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
    - (1) 館長
    - (2) 副館長
    - (3) 博物館の運営に関して専門知識を有する専任教職員の中から館長が推薦する者若干名
    - (4) 第6条第2項に規定する学芸員
    - (5) 学術・社会連携部長
  - 3 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。
  - 4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
  - 5 委員は、再任されることができる。
  - 6 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。
  - 7 委員長は、第2項第1号の委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員会の同意を得て、委員長が指名する。
  - 8 委員長は、会務を総理し、委員会の議長となる。
  - 9 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

**第7条の2** 委員会は、必要に応じ、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
- 5 委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。
- 6 分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

**第8条** この規程を改廃するときは、委員会の議を経なければならない。

(雑則)

**第9条** この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、委員会の議を経た後、学長の承認を得て、別に定める。

附 則（1991年規程第2号）

(施行期日)

- 1 この規程は、1991年（平成3年）10月31日から施行する。  
(明治大学刑事博物館規程等の廃止)
- 2 次に掲げる規程は、廃止する。

- (1) 明治大学刑事博物館規程（昭和56年規程第72号）
- (2) 明治大学商品陳列館規程（昭和56年規程第73号）
- (3) 明治大学考古学博物館規程（昭和56年規程第74号）  
（通達第669号）

**附 則**（1996年度規程第16号）

この規程は、1997年（平成9年）4月1日から施行する。

（通達第893号）（注 博物館協議会の設置に伴う改正）

**附 則**（2001年度規程第14号）

この規程は、2002年（平成14年）4月1日から施行する。

（通達第1143号）（注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正）

**附 則**（2003年度規程第8号）

（施行期日）

1 この規程は、2004年（平成16年）4月1日から施行する。

（改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例）

2 改正前の明治大学博物館規程第6条第1項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第8条第1項の規定にかかわらず、2004年（平成16年）3月31日をもって満了するものとする。

（通達第1232号）（注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正）

**附 則**（2006年度規程第13号）

この規程は、2006年（平成18年）11月16日から施行する。

（通達第1490号）（注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正）

**附 則**（2007年度規程第21号）

この規程は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。

（通達第1562号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

**附 則**（2008年度規程第4号）

この規程は、2008年（平成20年）5月20日から施行する。

（通達第1689号）（注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正）

**附 則**（2009年度規程第7号）

この規程は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1807号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

**附 則**（2017年度規程第3号）

（施行期日）

1 この規程は、2017年（平成29年）4月20日から施行する。

（委員の任期の特例）

2 この規程の施行後、改正後の第7条第2項第3号の規定により最初に委嘱される委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、2019年（平成31年）3月31日までとする。

（通達第2462号）（注 博物館の事業の追加、博物館協議会の博物館運営委員会への改組等に伴う改正）

## 博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994年9月26日制定

1994年度例規第7号

（趣旨）

**第1条** この要綱は、明治大学博物館規程（1991年規程第2号）第9条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品（以下「資料等」という。）の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

**第2条** この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。
- (2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

（申請）

**第3条** 資料等の撮影及び掲載（以下「撮影・掲載」という。）を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の資料撮影・掲載申請書（以下「申請書」という。）を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長（以下「館長」という。）に提出し、許可を受けなければならない。

（許可）

**第4条** 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
  - (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
  - (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
  - (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
  - (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。
- 3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができると明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

（撮影・掲載を許可しない場合）

**第5条** 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

（料金）

**第6条** 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携

- 部博物館事務室に納付しなければならない。
- 2 料金は、資料等1点当たりの金額とする。
  - 3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。

(料金の免除)

**第7条** 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。
  - (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
  - (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
  - (4) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
  - (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
  - (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
  - (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。
- 2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

**第8条** 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載（以下「貸出掲載・転載」という。）については、第3条から前条までの規定を準用する。

- 2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第2に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。
- (その他の諸経費)

**第9条** この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

**第10条** 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

- 2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

**第11条** 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

- 2 申請者は、撮影・掲載により著作権にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

**第12条** 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

- 2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

**第13条** この要綱に定めのない事項については、館長

が博物館運営委員会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

**附則**（1994年度例規第7号）

この要綱は、1994年（平成6年）9月27日から施行する。

**附則**（1997年度例規第7号）

この要綱は、1997年（平成9年）12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。

(通達第922号)（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正）

**附則**（2004年度例規第7号）

この要綱は、2004年（平成16年）10月1日から施行する。

(通達第1312号)（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正）

**附則**（2007年度例規第9号）

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。

(通達第1563号)（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

**附則**（2009年度例規第9号）

この要綱は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

**附則**（2015年度例規第13号）

この要綱は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。

(通達第2363号)（注 デジタル化に即した規定に改めること及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正）

**附則**

この要綱は、2017年（平成29年）4月26日から施行する。

**別表第1**（第6条関係）

撮影・掲載料金（消費税は含まない。）

写真・動画	10,000
-------	--------

(単位：円)

**別表第2**（第8条関係）

熟覧料金（消費税は含まない。）

熟覧	5,000
----	-------

(単位：円)

**別表第3**（第8条関係）

貸出掲載・転載料金（消費税は含まない。）

1 写真フィルム原版

サイズ	4×5 (インチ)	6×8(c m) 6×6(c m)	35mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

(単位：円)

## 2 デジタル写真

カラー・モノクローム	4,000
------------	-------

(単位：円)

## 3 動画及びデジタルコンテンツ

動画及びデジタルコンテンツ	20,000
---------------	--------

(単位：円)

### 明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱

2005年10月4日制定

2005年度例規第7号

(趣旨)

**第1条** この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程(昭和46年規程第38号)第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ(以下「特別展示室」という。)の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

**第2条** 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

**第3条** 特別展示室は、博物館が実施する特別展等(以下「特別展等」という。)に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

**第4条** 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。
- 3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。

(利用申込み)

**第5条** 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

**第6条** 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
  - (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
  - (3) その他利用が不適当と認められる場合
- 2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

**第7条** 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

**第8条** 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不適当と管理責任者が認めたとき。

- 2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

**第9条** 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

**第10条** 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。

- 3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。

- 4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。

- 5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

(権利の譲渡及び転貸の禁止)

**第11条** 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

**第12条** 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

- 2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。

- 3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

**第13条** 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

**第14条** この要綱を改廃するときは、博物館運営委員会の議を経なければならない。

附 則 (2005年度例規第8号)

この要綱は、2005年(平成17年)10月5日から施行する。

(通達第1397号)

**附 則**（2007年度例規第9号）

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。

（通達第1563号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

**附 則**（2009年度例規第9号）

この要綱は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1808号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

**附 則**

この要綱は、2017年（平成29年）4月26日から施行する。

**明治大学博物館友の会会則**

1988年6月25日制定

1993年4月1日改訂

2006年4月1日改訂

2010年4月1日改訂

2014年4月1日改訂

（名称）

**第1条** 本会は、明治大学博物館友の会という。

（事務所）

**第2条** 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学（以下「大学」という）に所在する明治大学博物館（以下「博物館」という）内に置く。

（目的）

**第3条** 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

（事業）

**第4条** 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- ①講演会・研修会・見学会などの開催
- ②会報、ニュース、図書の発行
- ③会員による自主研究分科会活動
- ④博物館事業への協力活動
- ⑤その他目的達成に必要と認められた事業

（入会）

**第5条** 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

2 会員には会員証を発行する。

（会員の特典）

**第6条** 会員には、次の特典がある。

- ①本会および博物館の行事などの情報提供
- ②大学並びに博物館主催行事への優待参加
- ③大学図書館の閲覧

（退会）

**第7条** 会員の資格は、次の場合に消滅する。

- ①退会の申し出があった場合
- ②死亡した場合
- ③会員証記載の有効期限が過ぎた場合
- ④本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合

（役員）

**第8条** 本会に、次の役員を置く。

- ① 会長 1名
- ② 副会長 2名以内
- ③ 理事 5名以内
- ④ 運営委員 若干名
- ⑤ 監事 2名以内

（役員を選出）

**第9条** 役員は、次のとおり選出するものとする。

- ①会長および監事は、総会で選出する。
- ②副会長および理事は、会長が任命する。
- ③総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室管理員・展示解説員からそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。
- ④上記②、③について、会報で報告する。
- ⑤監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

（役員の仕事）

**第10条** 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

- ①会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- ②副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。
- ③理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
- ④運営委員は、理事と共に会務を行う。
- ⑤監事は、本会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べることが出来る。

（役員の仕事）

**第11条** 役員の仕事は、2年とする。ただし、役員の仕事の再任を妨げない。

2 補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

（相談役・顧問）

**第12条** 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。

- 2 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
- 3 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。

（総会）

**第13条** 本会は、年1回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、会長は臨時総会を開催しなければならない。

（理事会）

**第14条** 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

- ①総会に付議する重要な事項。
- ②その他、本会の運営に関する重要な事項。なお、理事会構成員の過半数の要求があった場合、会長は理事会を開催しなければならない。

（運営委員会）

**第15条** 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、会長は運営委員会を開催しなければならない。

（会費）

**第16条** 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、

その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。

- ①一般会員 3,000円
- ②家族会員 1,500円(同居の家族)
- ③学生 1,500円
- ④賛助会員(1口) 10,000円

(経費)

第17条 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

第19条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

1. 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

## 6. 2022年度博物館事業計画書

(学務担当常勤理事の所管業務に関する年度計画書より抜粋)

### (1) 最重点項目

#### ① 「明治大学博物館ONLINEミュージアム」におけるデジタルコンテンツの拡充

博物館資料のデジタルアーカイブを利活用した資料情報発信の需要は急速に高まっている。いつでもどこでも学べる博物館の「知の拠点」としての機能を向上させるため、「明治大学博物館ONLINEミュージアム」の新規コンテンツ開発を行う。

2022年度から5ヵ年計画で特色ある画像・動画コンテンツ及び収蔵資料データベースを開発し公開する。1年目は現在公開している「バーチャル展示室」を改良し、ユーザーの探索可能な領域と情報を拡張する。また、これまでに蓄積した収蔵資料の高精細画像や3Dデータを活用したデジタルコンテンツを15件程度開発する。

#### ② 「古墳時代の霞ヶ浦北岸における首長系譜の研究」の推進

質の高い博物館事業を持続的に展開し、本学のブランディング形成に貢献するために、博物館の研究調査員制度を活用し、学内外の研究者と収蔵資料に関連する特色ある共同研究を推進する。

2022年度から2ヵ年は、学生向け教育資源の開発に研究成果を利活用し、特別展など展覧会、生涯学習講座により社会還元することを目的に、茨城県玉里舟塚古墳及び周辺地域の考古学的調査を進める。1950・60年代の「明大考古学」による同古墳ほか茨城県霞ヶ浦周辺での発掘は、考古部門の収蔵資料の中核となっており、大型古墳群を築造した首長・豪族集団の実態を解明することで、東国の古墳国家形成論への貢献が期待される。

#### ③ 2022年度博物館特別展「新しいお殿様—国替え、その後—(仮)」の制作と開催

特別展は教育・普及及び社会貢献の役割を博物館が果たすための中核的な事業である。博物館では当館所蔵の「内藤家文書」の調査研究を進め、これまでに転封大名の新領における「藩」の構築過程などを解明してきた。2022年度特別展では、この成果を展示というビジュアルな媒体でわかりやすく解説する。

1747年に岩城平(現福島県)から延岡(現宮崎県)へ転封(国替え)した内藤家にとって新領は未知の世界であった。特別展では、内藤藩が新領地でいかにして統治を実現し、領地・領民との一体性を有する「藩」を形成していくのかに迫る。会期は2022年10月～12月とし、会期中は無休で無料公開する。

### (2) 重点項目

#### ① 展覧会の開催(収蔵資料の公開)

特別展示室の利用は、博物館における「共同利用機能の拡充」の主要な役割を担う。学内団体に利用機会を幅広く提供するため、引き続き利用の周知を図る。

ア) 博物館主催展覧会等の開催

- A 新収蔵品展(前年度収集資料の公開)
- B 南山大学人類学博物館との交換展示と関連講座の実施

イ) 博物館以外の機関・組織が主催する展覧会への会場提供・開催支援

- A 学内組織による展示、教職員による研究成果の公開
- B 外部機関による展示

ウ) 常設展示の充実及び部分更新、その他の展示

- A 明治大学コレクション展(収蔵資料紹介のコラム展示)
- B 中央図書館・生田図書館等における出張企画展の実施

#### ② 各種教育普及プログラムの実施

学芸員の専門的知識や技能を活用した在学生教育・生涯学習プログラム・研究発表会等を実施する。また、学外の教育・研究機関が主催する市民講座等へも積極的に出講し、本学と博物館の研究成果を社会に還元し、地域連携の推進に努める。

ア) 在学生対象の教育事業(学芸員資格課程における博物館館務実習、全学共通総合講座、商学部・商学研究科連携特別講義)

イ) 博物館公開講座、入門講座等 ※リバティアカデミー講座として開講

ウ) 南山大学人類学博物館交流事業(講師の相互派遣による在学生対象特別講義)

エ) 付属高等学校・中学校との連携推進

- A 団体見学の受入れと出張授業の実施
- B 教諭向けの利活用マニュアルの企画・検討

オ) 職場体験等小中学生による学習活動への対応

#### ③ 学生支援

ア) 学生広報アンバサダーの募集と活動支援、活動スペースの設置

#### ④ 調査・研究活動

毎年の特別展は、博物館における調査・研究活動の成果報告として開催される。2022年度は2023年度以降の特別展に向けて調査・研究を継続する。

##### ア) 学内教員・組織と連携した共同研究・教育事業の実施

A 商学部教員と共同で伝統的工芸品産業の調査を実施し、成果は外部講師を招聘しての学部生・大学院生対象(約150名)の特別講義で発表する。

B 文学部・文学研究科と共同で収蔵コレクションに関する調査・研究を実施し、在学生による古文書整理作業への指導・助言をおこなう。

C 収蔵資料原所在地の資料保存機関、企業等諸団体の調査を通じて収集した関連情報を研究、展示、公開講座などのリソースとして蓄積する。

##### イ) 国際・国内学術交流

A 大英博物館所蔵ガウランド寄託資料関係の貸出運用、展示における活用及び研究の推進

B 日本博物館協会、日本考古学協会、日本旧石器学会、日本第四紀学会、考古学研究会、その他

#### ⑤ 社会貢献及び社会連携

##### ア) 博物館友の会への支援

日頃から館運営にあたって協力関係(各種ボランティア活動等)にある博物館友の会の活動を支援する。

A 各種講演会・講座の運営支援・共同開催

B 研究分科会の運営に対する場の提供、指導・助言

C 現地研修会等への学芸員の講師派遣

D 定期的な連絡会議の開催

##### イ) 地域連携

A 長野県長和町との黒曜石研究に関する連携事業の実施

B 茨城県との古墳出土資料整理・報告書刊行に関する連携事業の実施

C 宮崎県延岡市・福島県いわき市への内藤家文書活用支援

D 都内の文化財公開事業「東京文化財ウィーク」、千代田区・中央区「江戸アートエキスポ」等への参画

##### ウ) 父母会・校友会向けオンラインコンテンツの制作

#### ⑥ 情報発信

過年度事業について、出版掲載利用・入館者動向・各種委員会・施設概要・規程類等と合わせ『博物館年報』を年次刊行し、ホームページ上で公開する。調査・研究の成果は特定テーマ別に『博物館研究報告書』を刊行・公開する。広報誌やFacebook等のSNS、ミュージアム・ショップ、博物館・学会等とのネットワークを活用して展覧会や講演会等の当該年度事業の広報に努め、来館者増に結びつける。

ア) 『博物館研究報告書』第2号の刊行(考古)

イ) 『博物館年報2021年度』※ホームページ上で公開する。

ウ) 広報誌『ミュージアム アイズ』(年2回)

#### エ) 『展覧会案内2022』

#### ⑦ 資料収集と整理・保存・利活用促進

刑事・考古・商品の三部門の専門性に応じ、特色ある博物館コレクションの構築を進める。刑事部門では、法制史関連資料、収蔵する古文書(内藤家文書・地方文書)・絵図・古地図類の関連資料、考古部門では、黒曜石研究、東アジア青銅器、化石人類の関連資料、商品部門では、伝統的工芸品産業関連資料を収集の基本方針とする。また、寄贈資料の受入れも、収蔵資料としての適性を評価しつつ積極的に推進する。

##### ア) 収蔵資料の購入・受贈と資産登録、収蔵配架

##### イ) 図書(文献資料・博物館図書室に排架)の充実

A 博物館新収図書の選書 ※購入及び資産登録の主管は図書館

B 蔵書点検の実施

##### ウ) 収蔵資料の整理と修復

A 収蔵資料の再整理(考古資料、古文書資料、研究者旧蔵の学術資料)

B マイクロフィルム等2次資料の構築と整理

C 絵図・古文書等の補修

D 金属器の錆・腐損対策処置

E 記念館前遺跡出土漆器・木器の修復・保存処理

##### エ) 収蔵資料の利活用促進

A 資料の写真撮影及びデジタルデータ変換

B 閲覧調査受入れと古文書資料マイクロフィルムのプリントサービス(有償)

C 外部機関主催展覧会への収蔵資料貸出

D 収蔵資料写真の掲載利用受け付け

ウェブサイトの利用案内の内容を改善し、ホームページやSNS、明治大学博物館ONLINEミュージアムのデータベース公開を通じて収蔵資料情報の発信を活発化させ、有償利用の促進を図る。

#### ⑧ 施設の改修工事及び収蔵スペースの確保

ア) 展示ケースの劣化状況(低反射フィルム・部品)の点検と改修計画の立案

イ) アカデミーコモン地階収蔵室関連の排水設備の改修

##### ウ) 収蔵スペースの確保

多量の資料を受贈してきたことから、収蔵室の収容能力が限界に近い。200平方メートル程度の新たな収蔵スペースの確保に向けて検討・交渉を継続する。

#### ⑨ 明治大学ミュージアム「文化発信」資金の運用

全ての人々に等しく教育の門戸を開く場として、一層の充実を図るためには、学内予算だけでなく、積極的に外部資金を獲得することが必要である。博物館、大学史資料センター及び阿久悠記念館の展示施設を「ミュージアム」と称し、積極的な寄付の呼びかけを行い、各事業の助成を実施する。

# Memo

## 7. 明治大学博物館のあゆみ

1881 (明治14) 年	1月	明治法律学校開校
1929 (昭和4) 年	4月	刑事博物館を記念館5階に開設
1931 (昭和6) 年		大学創立50周年記念刑事展覧会開催
1933 (昭和8) 年	9月	刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任 『刑事博物図録』を刊行 (第2次世界大戦) 新制大学へ移行
1949 (昭和24) 年		
1951 (昭和26) 年	4月	刑事博物館の運営を再開 館長に島田正郎法学部教授(後、明治大学総長) 林久吉商学部教授(初代商品陳列館長)らの商品研究所が資料室を開設
1952 (昭和27) 年		考古学陳列館が2号館4階に開館 初代館長に後藤守一文学部教授が就任
1954 (昭和29) 年	4月	刑事博物館が2号館4階へ移転 6月に一般公開開始
1955 (昭和30) 年	2月	刑事博物館が博物館相当施設に指定される(2004年3月廃館にともない指定解除)
1957 (昭和32) 年	5月	商品陳列館が2号館4階に開館 (この頃には3館とも一般公開 3館共通の入館案内を作成)
1960 (昭和35) 年		考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授が就任
1963 (昭和38) 年		譜代大名内藤家文書を和泉校舎図書館に収蔵、後、刑事博物館に移管
1966 (昭和41) 年	4月	小川町校舎へ移転(考古2階・刑事3階・商品4階) 商品陳列館長に三谷茂商学部教授が就任 (大学紛争)
1976 (昭和51) 年	4月	刑事博物館長に鍋田一法学部教授が就任
1977 (昭和52) 年	4月	商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催(年1回～2003)
1981 (昭和56) 年		1号館(刑事1階・考古3階)、11号館(商品4階)へ仮移転 商品陳列館長に刀根武晴商学部教授が就任
1983 (昭和58) 年	9月	考古学陳列館長に大塚初重文学部教授が就任
1985 (昭和60) 年	11月	3館大学会館へ移転(刑事・商品3階・考古4階) 「考古学博物館」に名称変更
1987 (昭和62) 年	5月	公開講座「考古学ゼミナール」開講
1988 (昭和63) 年	6月	考古学博物館友の会結成
1991 (平成3) 年	4月	3博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
	10月	「明治大学博物館規程」制定
1995 (平成7) 年	4月	考古学博物館長に戸沢充則文学部教授が就任 刑事博物館長に川端博法学部教授が就任
	10月	博物館入門講座を開講
1997 (平成9) 年	4月	刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催(～12月)
2001 (平成13) 年	4月	刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
2002 (平成14) 年	4月	商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授が就任
2004 (平成16) 年	4月	「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館 博物館長に小嶋尚文学部教授が就任 「明治大学博物館規程」改正施行(刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合) 国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤンゲ遺跡と日本の旧石器時代」開催(～5月)
	10月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託(～2005年3月)
2006 (平成18) 年	4月	博物館長に杉原重夫文学部教授が就任
	8月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託(～2007年3月)
	10月	特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示
2007 (平成19) 年	11月	明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる(～2010年3月)
2009 (平成21) 年	10月	事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
	4月	事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる
2010 (平成22) 年		巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」展開催 中国国家一級文物を展示(～5月)
2012 (平成24) 年	3月	南山大学人類学博物館と交流協定締結
2013 (平成25) 年	4月	博物館長に風間信隆商学部教授が就任
	2月	ギロチンとニュルンベルクの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との合同特別展「驚きの博物館コレクション展」開催(～3月)
	3月	南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明性への問いとコレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行
	7月	岩宿遺跡出土石器(重文・29点)他記録類をはじめ海外へ出展(～9月) 韓国公州市石壮里博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展開催(～2014年2月)
2014 (平成26) 年	5月	開館10年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」開催(～6月)
	7月	大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを紹介した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催(～8月)
2016 (平成28) 年	3月	常設展示を改修、新装オープン 東京都教育庁から博物館相当施設に指定される
	4月	博物館長に村上一博法学部教授が就任
2017 (平成29) 年	4月	

2018 (平成30) 年	3月	年度の入館・利用者数が初めて10万人を超える
	4月	博物館長に井上崇通商学部教授が就任
	8月	2004年の開館以来の入館・利用者数が100万人を超える
	10月	大英博物館資料を展示した特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」開催 (～12月)
2019 (令和1) 年	9月	特別展「見えているのに見えていない! 立体錯視の最前線」が入場者2万人を超える
2020 (令和2) 年	2月	年度の入館・利用者数が初めて11万人を超える
	3月	COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) 拡大防止のため臨時休館 (～10月)
	4月	博物館長に千葉修身商学部教授が就任
	10月	COVID-19による各種の行動制限下、特別展「氷河期の狩人は黒曜石の山をめざすー明治大学の黒曜石考古学ー」を開催
2021 (令和3) 年	7月	大学史資料センターとの共同企画特別展として、明治大学創立140周年記念事業「校友山脈ー明治大学の教育と人材ー」と特別展校友山脈第Ⅱ部 明治大学×SDGs「神田学生街ー140年の今⇔昔」を開催
	~4月	
2022 (令和4) 年	10月	特別展「新しいお殿様ー所替・その後ー」を開催

## VII 企画展「古代常陸の雄・三味塚古墳」 の開催

忽那 敬三\*

はじめに

2022年7月8日（金）～8月7日（日）の27日間の日程で、特別展示室において企画展「古代常陸の雄・三味塚古墳」を開催した。本展は、茨城県が1955（昭和30）年に発掘調査を実施した茨城県行方市三味塚（さんまいづか）古墳の主要出土資料を茨城県外で初めて公開したものである。当時の発掘調査には大塚初重（おおつかはつしげ）名誉教授が主担当として携わり、報告書の作成や一部の出土資料

を収蔵するなど明治大学と深い関わりをもつ古墳である。同古墳の出土資料は茨城県内でも屈指の好例とされ、2018年には主要資料が国の重要文化財に指定された。同年より文化庁と茨城県により指定資料の保存修復事業が行われたが、本展の開催は同事業の成果を一般に周知する目的のもと、明治大学博物館が主催し、特別共催の茨城県立歴史館、後援の行方市教育委員会の協力を得て開催したもので、来場者は5,438名を数えた。以下では、その内容について紹介する。（所蔵が示されていない資料は全て茨城県立歴史館蔵）



図1 企画展ポスター

### 1. 三味塚古墳の概要

三味塚古墳（茨城県行方市玉造町沖洲）は、霞ヶ浦のほとりに築かれた全長87mの前方後円墳である。「三味」は、「～三味（さんまい）」という語で用いられるように、雑念を払いものごと集中するさまを表す仏教用語であることから、三味堂など仏教に関わる活動を行う場所であったことが名称の



図2 展示室入口

\* 明治大学博物館考古部門



図3 会場の様子 (中央が石棺・副葬品埋納施設出土状況実測図)

由来と考えられる。1955年の発掘調査で出土した豪華な副葬品から、地域の盟主的な古墳であるとともに5世紀末頃に位置付けられることが明らかとなった。周辺では東日本で第2位となる全長187mの舟塚山古墳(石岡市)が5世紀前半に築かれた後、大型古墳がみられない空白期を経て、5世紀末に三味塚古墳を含む80~90m級の前方後円墳4基がわずか10km圏内の狭い地域内に相次いで出現する。有力首長が並び立つなかで三味塚古墳の副葬品の内容は群を抜いており、水上交易など霞ヶ浦がさまざまな形でもたらした富を背景に勢力を拡大した人物の墓であると推定されている。

## 2. 本展開催の契機

1955年の発掘調査終了後、明治大学の協力により1960年には発掘調査報告書が刊行された。以後、茨城県立歴史館に主要資料、明治大学には横板板留短甲(よこはぎいたびょうどめたんこう)・同衝角付冑(しょうかくつきかぶと)・小札甲(こざねよろい)(挂甲(けいこう))がそれぞれ収蔵され、両館において展示や調査研究において活用されてきた。2018年の重要文化財指定にあたり明治大学所蔵資料は茨城県に所有権が一本化されることになり、短甲等は寄託資料として引き続き明治大学博物館において保管・展示が行われている。

重要文化財指定資料については2019年から茨城県によって保存修復作業が行われ、2022年3月に終了した。修復の完了を記念し、先行して同年4月29日から6月19日にかけて茨城県立歴史館において「ビフォー・アフター三味塚古墳」展が開催されたが、修復により資料が強化され遠方への輸送・展示



図4 甲冑復元品のハンズオンコーナー(当館蔵)

が可能となったことから、三味塚古墳と関わりの深い明治大学博物館において、同様の展示が企画されることとなった。明治大学博物館と特別共催の茨城県立歴史館が共同で事業にあたり、展示は「古代常陸の雄・三味塚古墳」とし、構成・内容とも明治大学博物館独自のものを制作した。

出展資料は38件2,366点であり、うち茨城県立歴史館が所蔵する国指定重要文化財は34件2,354点を占めた。さらに明治大学博物館が所蔵する埋葬施設遺物出土状況実測図(大塚初重氏作成)や調査時の写真類を展示したほか、会場中央には石棺・副葬品埋納施設出土状況図を4×3mの実物大で設置し(図3)、来場者がその大きさを実感できるようにした。そのほか、会場別室にて発掘調査写真スライドショーや行方市が制作した三味塚古墳の広報動画の上映を行った。また、復元冑・短甲を触ることができるハンズオンコーナー(図4)を設けた。会期中は学芸員による展示解説を2回開催し、学生による場内監視も全日実施した。

本企画展は、所蔵館である茨城県立歴史館外ではもちろんのこと、茨城県外で初めて三味塚古墳の主要資料が一堂に公開される初の機会となったのである。なお、本展は、籠谷典子「知の公開」博物館活動資金の支援を受けて制作された。

## 3. 展示構成

### 3-1 墳丘の破壊と緊急発掘調査の開始

戦後、関東各地では大型台風による甚大な被害が毎年のように起こっており、茨城県は1955(昭和30)年に霞ヶ浦に堤防を建設する工事を開始した。その土取工事の対象となったのが、当時沖洲集落の



図5 後円部の破壊の様子（当館蔵）

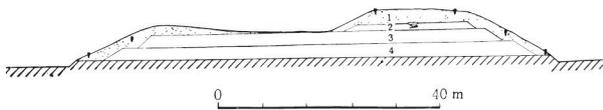


図6 墳丘断面図（斎藤他1960を一部改変）

共同利用地となっていた三味塚古墳だったのである。「山林」として登録されていた墳丘を民間企業が買い取り同年3月に工事が始まったが、霞ヶ浦に面した県道355号線側にレールを敷設し、墳丘を崩した土をトラックで運び出すという大規模なものであった（図5）。その様子を偶然通りがかった茨城県文化財審議専門委員の関係者が目撃し、委員を通じて国の文化財保護委員会（現在の文化庁）と茨城県教育委員会が知るところとなったのである。

古墳の規模と立地から史跡として重要であるとの判断が文化財保護委員会によって下され、茨城県教育委員会と同土木課、民間業者の間で協議が行われたが、関係者の努力にもかかわらず古墳の消滅は避けられない見通しとなった。そのため、やむを得ず発掘調査による記録保存（古墳は失われるが、調査によって記録に残し、出土品は回収・保存する）となることが決定された。

調査は茨城県が実施主体となり、担当者は文化財保護委員会の齋藤忠文部技官（当時、以下同）、明治大学文学部史学地理学科考古学専攻の後藤守一（ごとうしゅいち）教授、大塚初重助手に委託された。なお、県教育委員会からは実務担当として川上博義（かわかみひろよし）主事が参加している。

齋藤・後藤両氏は多忙であったため、実質的に大塚氏と川上氏によって発掘調査が進められたが、県

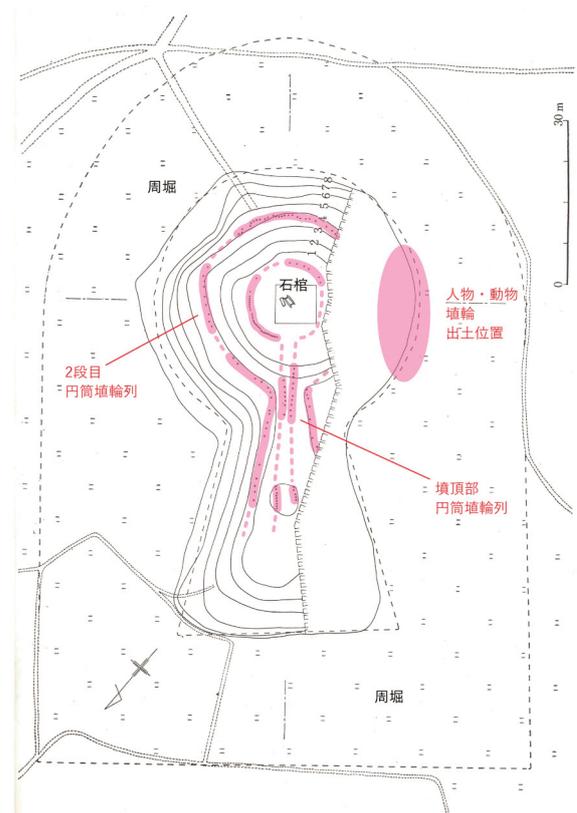


図7 墳丘測量図と円筒埴輪列・形象埴輪出土位置（斎藤他1960に加筆。作成協力：杉本茉織）

や大学からの人的支援はほぼ無く、沖洲集落の青年団メンバー数名と地元の中学校の生徒の応援を得てようやく発掘が可能となる有様であった。土取工事が依然として進行し、毎日数メートルずつ墳丘が削られていくという極限状態の中で調査が進められたのである。

### 3-2 墳丘と埴輪

#### 3-2-1 墳丘の構造

三味塚古墳は、南東方向に後円部、北西方向に前方部を配した全長87mの前方後円墳である。墳丘の周囲には、地形や道路からも明らかなように平面盾形の堀（周堀）が巡っており、古墳の威容をさらに際立たせている。墳丘は見かけ上2段になっているが、2000年の明治大学による発掘調査で地山を削りだした基壇部が最下段の3段目に存在することが明らかになっている。また、茨城県内の多くの古墳と同様に葺石（ふきいし）はみられない。

墳丘測量図（図7）の原図は、後藤教授みずから地元の立花中学校の生徒とともに作成した。中学



図8 円筒埴輪



図9 跪く人物埴輪と力士埴輪の体部



図10 人物埴輪頭部



図11 鹿形埴輪（左）と馬形埴輪（裸馬）

校から古墳まで3kmの道のりを通った中学生の活躍が発掘の成功を支えたと言っても過言ではない。大塚氏の野帳には、参加（希望？）した生徒本人の自筆とみられる71名分（2年生と3年生）の名簿が残っていた。

この調査で特筆すべきは、長軸に沿って大規模に破壊されたことを生かし、墳丘全体にわたって墳丘築造の状況を明らかにした点である（図6）。通常このような大型古墳ではまず不可能な調査であるが、破壊された墳丘断面の土層を精査した結果、用いる土を変え4段階に分けて築造されていることが明らかになっており、貴重な調査事例であるといえる。

### 3-2-2 埴輪の構成

墳丘の破壊に伴い、県道沿いに人物埴輪の頭部が並べられるなど調査開始時点ですでに大量の埴輪片が出土していた。大塚・川上両氏による丹念な調査の結果、墳丘の最上段と2段目の円筒埴輪列が検出されており、推定で数百本が並べられていたとみら

れる（図7）。また、この地域では最古段階にあたる家、人物、動物など多彩な形象埴輪も出土した。腹ばいになってひざまずく人物、女性、力士、顔を鮮やかに彩った人物は、被葬者のもとで行われた儀式の様子を具体的に表現している。

### 3-2-3 人物埴輪

島田鬻（まげ）の女子、髪を耳のあたりでまとめた美豆良（みずら）が失われた男子はいずれも頬に縦方向の赤彩があり、儀式に臨む人物の装いである。右手を挙げたしぐさと頭の板状の鬻から力士とみられる個体は、今回の修復作業でひび割れた表面が強化され、所蔵館外での展示が可能となった。

まわしを締めた力士の体部は、今回の修復の過程で臀部の角度を検討したところ、直立した姿ではなく、四つに組み合う姿勢であったことが明らかになった。腰前部には、精巣の表現と陰茎が折れた痕があるなど、他の人物に比べて丁寧かつ大型に作られている。

また、力士は足が造形されているが、その他の人

物埴輪の多くは下半身を筒状に簡略化していたとみられ、服の裾部分にひも状の粘土帯が剥がれた跡がある個体は、たすき掛けの表現をもつ女子埴輪の下半身である可能性がある。

### 3-2-4 動物埴輪

馬、鹿のほか犬らしき個体が確認されている。馬は少なくとも2体あり、頭部は手綱があるものの馬具である轡（くつわ）が口元にないことから、荷を運ぶなどした裸馬であるとみられる。尻部の破片は、鞍の後部と鈴を伴う環状馬具である雲珠（うず）が表現され飾馬であることが確実である。このほか、足をかける輪鐙（わあぶみ）が付く破片がある。動物埴輪の足の破片は10点以上が確認されており、大型の足は馬、小型の足は鹿や犬のものと考えられる。少なくとも5～8体と推定され、なおかつ馬が複数頭あり、さらに飾馬と裸馬を作り分けるなど、同時期の関東地方では最大級となる群馬県保渡田八幡塚古墳に次ぐ規模の形象埴輪群であったとみてよいだろう。

## 3-3 石棺と副葬品

### 3-3-1 石棺の発見

後円部中央に存在すると推定された埋葬施設の発見は難航した。現地表面から深さ1mの地点で中世の五輪塔が出土し、一度は埋葬施設が存在が絶望視されたが、円筒埴輪列の円周をもとに後円部の中心点を割り出し、棒で地中を探ったところ2.7mという想定外の深い位置で石棺に突き当たったのである。後円部の土層断面の検討から、石棺は未盗掘の可能性が高いことがわかり、大塚氏は斎藤・後藤両氏に「ワレセキカンハッケンセリ、オイデコウ」と電報を打った。

1枚石の蓋石は228cm×88cmで、棺の身は8枚の板石で構成されていた。内法は長さ198cm、幅58cm、深さは37cmを測り、側壁と底石の内面側には朱が塗られていた。石棺は筑波山周辺で産出される雲母片岩製の板石を組み合わせたもので、在地色が感じられる一方、蓋石の長辺中央に1対の突起を有しており、5世紀の近畿地方に多い長持形石棺の影響をうかがわせている。

また、棺の東側からは槍のような長柄の武器である鉄戟（てつげき）が出土し、棺を守護する意味を持つと考えられる。さらに棺の北側からは武具や

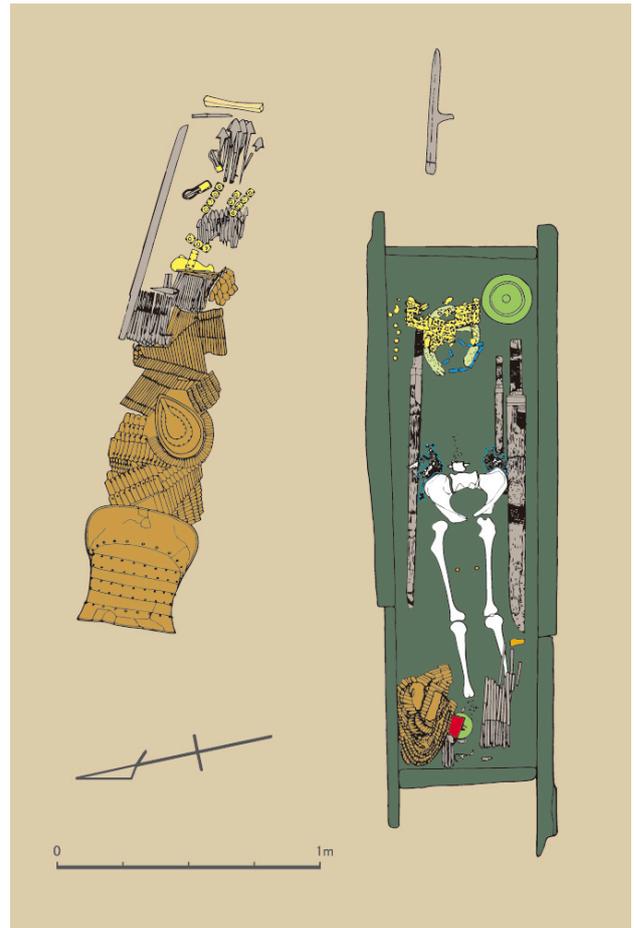


図12 石棺・副葬品集中部の出土状況図（斎藤他1960に加筆。作成協力：杉本茉織）

馬具がまとめて置かれた副葬品集中部が発見された。

石棺発見の報は瞬く間に広がり4月6日の蓋石検出時には4,500人もの見学者が押し寄せた。4月7日当日は午前8時30分から作業を始め、見学者や報道陣でごった返す中、午前11時に蓋石が開けられた。大塚氏はその時の状況について、「一瞬、水を打った如く静かになった」と調査日誌に記している。

棺内は棺の隙間から土砂が入り込んでいたが、流入が少なかった頭部付近ではこの段階で金銅冠の一部が確認されている。その日のうちに冠全体が検出されたほか、頭付近の四獣鏡、ガラス小玉などが発見され、翌日には棺内をほぼ完掘し、棺内から男性1体の人骨、その周囲から金銅冠・鏡・武器・武具・玉など数千点におよぶおびただしい数の副葬品が確認されたのである。並行して図面の作図が行われたが、4月9日には早くも遺物を取り上げるという驚異的なペースで作業が進められた。



図13 戟・四獣鏡・棺内出土の刀剣



図14 金銅製冠（左）と復元品（当館蔵）



図15 金銅製垂飾



図16 手首付近出土のガラス玉

### 3-3-2 棺上部の副葬品

副葬品は頭部付近に重要な品々を配置する傾向がみられるが、三味塚古墳でも顕著である。まず頭部には金銅馬形飾付透彫冠と金銅垂飾、首の位置には碧玉製管玉が装着されていた。頭の下には、枕状の繊維製品（現存せず）があったと報告されている。その左側（向かって右側）には、平縁変形四神四獣鏡が絹の袋に包まれた状態で置かれていた。

鏡の下には、鹿角製刀装具と紐で飾った鞘に納められた幅広の鉄製大刀と鉄剣を並べている。被葬者を挟んで対する右側（向かって左側）の鉄製大刀は、手で握る部分（柄）付近に勾玉形・球形の金銅製飾金具があり、手の甲を保護する「護拳帯」を飾っていた。豪華な刀剣類を棺内に供えていたことがわかる。

手首付近からは2,200点以上のガラス小玉が見つかっており、ブレスレットのように巻いて装着していたとみられる。右手首付近からは貝製の腕輪（現存せず）も見つかっている。

三味塚古墳で最も特徴的な出土品が金銅製冠である。被葬者が装着した状態で出土しており、展開した全長は60cm、高さは12.6cmをはかる。国内の冠の出土例は約30点ほどであり、全体像がわかる例はごくわずかなため、貴重な例である。

二山式と呼ばれる頭部側面が盛り上がる形状で、中央に2段の蝶形装飾があり全面を80点以上の歩揺（円形のスパンコール状の飾り）で豪華に飾っている。最大の特徴は本体の透彫文様と上部の立飾りで、透彫は下段に連続波頭文帯、中・上段は31個に区切った方形区画内に樹木と花、かなり図案が退化した動物、鳥（鳳凰？）など多様な画題を描く。一方、立飾りは透彫と共通する樹木の間に、中央に頭を向けて馬が8頭配されている。馬を戴く冠は国内で唯一の例であり、被葬者の強いこだわりがうかがえるといえよう。文様や形状から、朝鮮半島の伽耶（かや）や百済（くだら）の影響のもとに国内で製作されたと考えられている。

刀剣類は、全長1m以上の大型の儀礼用大刀が2

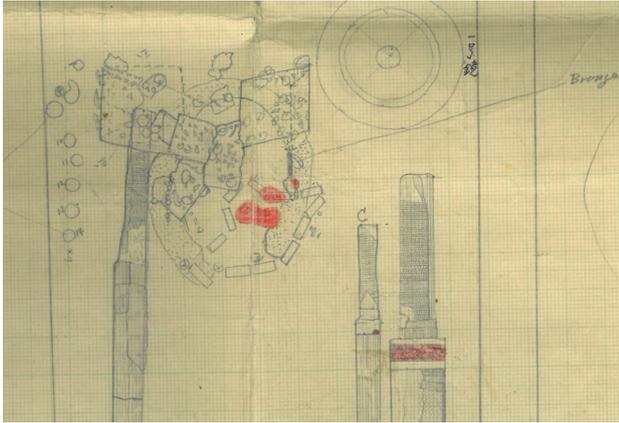


図17 石棺内出土状況図（部分、当館蔵）

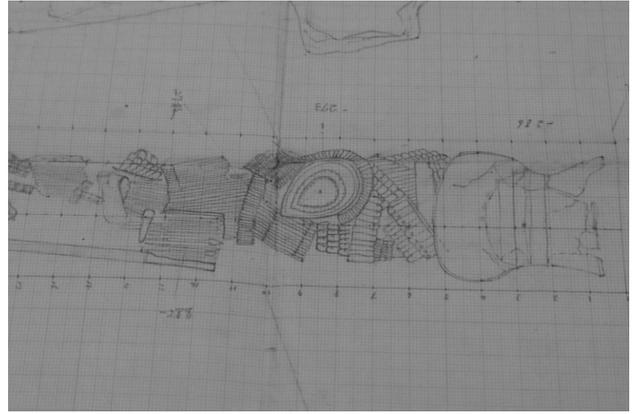


図18 棺外副葬品集中部出土状況図（部分、当館蔵）



図19 鉄地金銅製轡

点、剣が1点あり、計3点の刀剣類が副葬されていた。直弧文を描く鹿角製刀装具や護拳帯に勾玉形と円形の2種からなる金銅装具などをもつ豪華な大刀であり、被葬者がトップクラスの人物であったことを示している。

鏡は2点出土しており、そのうち大型の平縁変形四神四獣鏡は、直径19.7cmで古墳時代中期としては最上位級である。図像は4体の神像と神獣が鈕（ちゅう）に頭を向ける対置式であるが、この鏡は5世紀半ばと考えられるため、長期間保有された後に副葬されたとみられる。鈕に残る紐状のものは、織物を筒状に縫ったものであることが判明しており、裏面には鏡を包んだ絹の袋の痕跡が残っている。

### 3-3-3 棺下部の副葬品

左側（向かって右側）の足元には、50点以上の鉄鏃がまとめて置かれていた。この裏の付着物から、棺全体に絹の布が敷かれていた可能性が指摘されている。足の下には、変形乳文鏡が鏡面を上にして置かれ、さらにその上に竹製の堅櫛が載せられてい



図20 横矧板鉄留短甲

た。頭部付近の鏡と異なる副葬状況から、配偶者が供えたものとする意見もある。この付近では、このほか鉄製の刀子（ナイフ）が出土している。

左隅の一角を占めるのが、小さな鉄板数百枚を綴じ合わせて作られた小札甲（こぎねよろい）（挂甲（けいこう））である。当時の最新式の鎧であり、他の付属具は棺外に置かれ、この小札甲のみ棺内に入れていることから、武具の中で最も重要視されていたようである。

このほか、大腿骨の間から小玉状鹿角製品（現存せず）が出土している。服飾に関連するものと思われるが、用途は不明である。

玉類は石製とガラス製の2種類がある。深い緑色を呈する碧玉で作られた管玉は、被葬者の首付近から連なった状態で出土しており、大塚氏によって描かれた棺内遺物出土状況図の記録によると、大きい穴から小さい穴へ紐を通したためか管玉の穿孔方向を揃えてつなげていたことがわかっている。ガラス小玉は2,200点以上が確認されており、直径4mm程

度の小型品は左手首、直径8mm前後の中型品は右手首付近の出土であったとされる(図16)。大塚氏は両者を紐に通して腕に巻いて実験したところ、どちらも同じ幅になったと述べている。大型品は通常の青色であるが、小型品は黄色と緑色が含まれ、多色化の傾向を示している。

また、被葬者の右足元には小札甲の本体が納められていた。甲の一部にはワタガミ(鎧の最上部を肩から下げるための布)が残存し、綾(あや)という複雑な織物であったことがわかっている。

石棺内と副葬品集中部は大塚氏と応援にきた明治大学の大学院生・李進熙(いじんひ)氏によって実測が行われた。前者の図(図17)では、各出土遺物の位置が詳細に記録されている。赤色顔料(朱?)の痕跡や、管玉の穿孔方向など細部にわたって現地では観察と検討を行っていたことがわかる。後者(図18)は石棺の蓋と副葬品集中部の長軸がずれ、並列していないことが明確に示されている。副葬品集中部の細部は報告書の掲載図面と異なっており、作成の過程で写真などをもとに加筆修正が行われたようである。

### 3-4 棺外副葬品集中部

冠と並んで三味塚古墳を特徴づけているのがこの副葬品集中部である。蓋石の検出中に発見され、底面が蓋石とほぼ同じ高さで有機質状の薄い土層が確認されている点、副葬品が直線状に整然と並んでいる点から、石棺本体の埋置が終わった段階で副葬品を木箱状の容器に入れてその隣に置き、棺とともに盛土で埋められたと推定されている。

東側から砥石、刀子、鉄地金銅の馬具類、鉄製大刀、160本以上の鉄鏃、鉄斧、数百点にのぼる小札甲(挂甲)の付属具(胴体以外を保護する防具)、衝角付冑(しょうかくつきかぶと)、横矧板鋌留短甲(よこはぎいたびょうどめたんこう)という、質量ともに茨城県内でもトップクラスの副葬品が出土している。このように大量の武器・武具を副葬するのは5世紀の古墳にみられる特徴であり、通常は鎌やヤリガンナ、のこぎりなど一定数含まれるはずの農工具が鉄斧1点のみと少なく、被葬者が武力を重視していたことをよく示している。

#### 3-4-1 馬具

口に噛ませて馬を制御する轡(くつわ)(図19)

と、馬具や手綱を頭部に固定するための革ベルトを締めるための鉸具(かこ)、ベルトの表面を装飾した金銅方形金具が出土している。轡の左右には金銅で美しく飾ったf字形鏡板(かがみいた)が取り付けられており、その周縁には冠と同じく波形の線と点を組み合わせた波状列点文が描かれているが、この文様は21点を数える金銅方形金具にもある。これらの馬具は頭部に用いられるものに限られており、胸や腰を飾る雲珠(うず)・杏葉(ぎょうよう)や鞍(くら)がない。武器・武具の充実ぶりに比べ、馬具はやや少ない印象である。

#### 3-4-2 短甲と冑

短甲(図20)は横長の鉄板を鋌(びょう)(リベット)で固定する技法で作られている。鋌が少数で大型、右脇の金銅蝶番(ちょうつがい)金具の鋌が3個、覆輪(ふくりん)(短甲の上下の端部)が鉄製、鉄の板材の幅が広いという古墳時代中期末(TK47型式期)の特徴がある。以前の復元はやや寸胴でイレギュラーな作風とされていたが、今回の修復で三重県大垣内古墳出土例に近い形状であることが判明した。なお、解体の過程で右胴端部の破片が不自然に内側に曲げられていることが明らかとなった。死後の世界へ送るために武具としての機能を失わせた儀礼の可能性がある。

冑も短甲と同様の技法で作られており、右先端には小札甲の付属具である頬当(ほおあて)が錆で固着してしまっている。最下段の腰巻板と伏板を一体で作っている数少ない例であり、先端の尖っている衝角部の幅が広く鋌が大きいなど、同種の冑の中でも新式の要素を持つ。現在は失われているが、小札を綴じ合わせた鍔(しころ)が側面から後部にかけて付いていたことが当時の写真から判明している。頂部には穴があり、鳥の羽など飾りをつけていたと考えられる。形状の特徴から、横矧板鋌留短甲ではなく小札甲とセット関係にある新式の冑であることがわかった。

#### 3-4-3 付属具

小札甲の付属具は、頬・首後部・襟周り・両腕・両足(大腿部)を保護するパーツが確認されており、大阪府今城塚古墳復元例に近い全身武装の一式であったと考えられる。

### 3-5 三味塚古墳の評価

この膨大な出土品と調査成果から、三味塚古墳はどのように位置づけられるのであろうか。形象埴輪は小型ながらも関東の有力古墳に匹敵する多数の形象埴輪群を有している。前代の最上位級の鏡や豊富な武器・付属具が充実した新式の小札甲を持つなど、舟塚山古墳の後継者となりうる霞ヶ浦北部一帯筆頭の首長であったと考えられる。馬形飾の冠や金銅装馬具の存在が印象的ではあるものの、副葬品を見る限り馬生産に関係する要素はわずかであり、戦の棺外副葬や武器・武具の豊富さから、軍事的性格が強い首長であるといえる。

一方で、在地の石材を用いた棺、オリジナリティある金銅製冠、独特な作風の埴輪など在地色も色濃くにじませている。古墳の立地を自らの支配地である霞ヶ浦を強く意識したものとみるならば、近畿からの派遣将軍的な首長ではなく、霞ヶ浦の水上交易や豊富な生産力を力の源泉として、関東・近畿の勢力と渡り合った在地系の有力首長であったのではなかろうか。

### 3-6 三味塚古墳の現在

三味塚古墳の調査はわずか20日余りの期間で行われた。刻々と破壊が迫る中、大塚初重氏をはじめとする調査担当者たちの苦闘の末、現在でも研究が可能な貴重な記録と出土品が残されたのである。これらの成果により、残り1/3まで墳丘が削られたところで工事は中止され、三味塚古墳は辛うじて消滅をまぬがれることになった(図21)。



図21 調査後の三味塚古墳(復元整備前、当館蔵)

出土品は茨城県立歴史館と明治大学博物館で収蔵され、冑と短甲は明治大学博物館の常設展示で一般に公開されてきた。1994年、2000年には明治大学によって残存した墳丘の発掘調査が行われ、2005年には玉造町(現行方市)により墳丘が復元され墳丘の威容を今に伝えている。2018年には文化庁・茨城県・茨城県立歴史館・明治大学博物館の協力により主要な出土品が国の重要文化財に指定され、その学術的価値が改めて評価されている。三味塚古墳の出土品は、古代常陸、ひいては東日本・日本列島そのものの古墳時代を考える重要な資料として、将来にわたり守り伝えられるべき貴重な資料群なのである。

### おわりに

本展は重要文化財である三味塚古墳の主要資料について茨城県外で初めて公開することにより、教育・研究の面で貴重な機会を提供した。会期中のアンケートでは本展により「三味塚古墳の存在を初めて知った」という声が多く寄せられ、三味塚古墳の存在と明治大学の考古学研究について首都圏をはじめとする多くの方々に周知することができたという点でも高い効果があったといえよう。

なお、会期中の2022年7月21日に大塚初重氏が逝去された。会場入口に「大塚初重氏のご逝去にあたって」という追悼文パネルを展示し、大塚氏の功績を偲んだ。

### 謝辞

開催にあたり、文化庁、茨城県、行方市教育委員会、茨城県立歴史館ならびに同館の小澤重雄首席研究員より多大なご協力を賜りました。記して謝意を申し上げます。

### 参考文献

- 小澤重雄編 2016『三味塚古墳とその時代』茨城県立歴史館
- 忽那敬三・佐々木憲一編 2019「茨城県三味塚古墳出土遺物の研究」『明治大学博物館研究報告』第23号、明治大学博物館 pp.1-54
- 斎藤忠・大塚初重・川上博義 1960『三味塚古墳—茨城県行方郡玉造町所在—』茨城県教育委員会









三 御本家御同姓御縁家御両敬等

(表紙)

「御末家

御同姓

御縁家

御両敬

大殿様政義公 御統合御養家方

大殿様同公 御実方

充真院様御統書

殿様政華公 御統書

御末家

「二」(朱書)  
三万石余

一万四千石余

御同姓

五万九千石余

三万三千石余

一万五千石

五千七百石

五千石

御縁家

六十一万九千五百石  
四十二万六千石余

尾州名古屋  
芸州広島

徳川三位中将  
浅野安芸守

参州举母

奥州湯長屋

内藤丹波守  
内藤「播磨守」

越後村上

信州高遠

信州岩村田

(朱書)  
「御旗下」

(朱書)  
「同」

内藤豊前守  
内藤若狭守  
内藤志摩守  
内藤鉄若  
内藤釣次郎

十一万石

三万石

二万石

御両敬

二十五万石

十五万石

十五万石

十万石

九万九千石

二万四千石

七万四千四十石

七万石

六万石

六万石

六万石余

五万三千石

五万三千七百石余

石  
(朱書)

五万三千石

五万八千九百石

五万石

四万三千石

三万五千石

三万石

羽州米沢

濃州高浜「須」(朱書)

常州府中「朱書」

同「御嫡」紀伊守(朱書)

上杉「弹正大弼」(朱書)

松平範次郎

松平播磨守

同「御嫡」雅楽頭(朱書)

江州彦根

播州姫路

越後高田

越後新発田

信州松代

常州土浦

越後長岡

豊後岡

肥前島原

参州西尾

丹波篠山

奥州中村

上州館林

泉州岸和田(朱書)

上総「松尾」(朱書)

势州久居

播州龍野

丹波亀山

下総関宿

熊本新田

奥州磐城平

濃州岩村

井伊掃部頭

酒井雅楽頭

榊原式部大輔

溝口伯耆守

真田信濃守

土屋采女正

牧野「備前守」(朱書)

中川修理大夫

松平主殿頭

松平和泉守

青山左京大夫

相馬因幡守

秋元但馬守

岡部美濃守

太田備中守

藤堂佐渡守

脇坂淡路守

松平図書頭

久世順吉

細川若狭守

安藤对馬守

松平能登守

文化十二年亥年十一月廿三日  
一松平佐渡守様御兩敬被仰合

佐渡守直寛殿室

右政順公御妹

文化十四年丑年七月廿二日

一中川修理大夫様御兩敬被仰合

修理大夫久教殿

右充真院様御実方御兄

文政三辰年四月朔日

一藤堂佐渡守様御兩敬被仰合

佐渡守高祜殿室

右政順公御妹

文政五年年七月廿五日

一菅谷兵庫様御兩敬被仰合

御養子繁三郎様

右松平佐渡守直寛殿御妾腹御二男

天保四巳年七月廿二日

一山名鞠負様御兩敬被仰合

鞠負様之

奥方様

右松平佐渡守様御妾腹御娘

天保四巳年七月廿七日

一蒔田権佐様御兩敬被仰合

御養子莊次郎様

右同断御四男

天保五年年十一月廿八日

一内藤近江守様御兩敬被仰合

近江守様御先祖志州鳥羽ノ御家

分レ是迄御疎遠之処、此度御兩敬相成

天保七年申年十月五日

一松平相模守様御兩敬被仰合

相模守勝権殿

右政義公御実方御兄

天保八酉年十月十六日  
一榊原式部大輔様御兩敬被仰合

式部大輔政養殿室

右政義公御実方御姉

弘化二巳年十一月朔日

一溝口主膳正様御兩敬被仰合

伯耆守直諒殿御娘

政義公御再室

右主膳正直溥殿慈光院様御兄

安政六未年六月十一日

一太田備中守様御兩敬被仰合

後ニ政義公御聳養子

寛次郎政挙公

太田道淳資始殿御三男備中守資功殿御弟

文久二戌年八月廿六日

一相馬大膳亮様御兩敬被仰合

大膳亮殿室

右政挙公御実方御姉

文久二戌年八月廿六日

一堀田加賀守様御兩敬被仰合

加賀守正誠殿

右太田道淳様御実家政挙公御実方御從弟

文久二戌年閏八月十八日

一牧野備前守様御兩敬被仰合

備前守殿室

右政挙公御実方御姉

慶応元丑年二月朔日

一秋元但馬守様御兩敬被仰合

但馬守殿

右太田道淳様御二男政挙公御兄

明治元辰年八月廿四日於京都

一久松老岐守様御兩敬被仰合

〔内藤家文書一——七〇——二〕

九條様御家  
光相院様 暁山様御姉

近衛様御家  
尾張宗睦殿御簾中 好君様御事  
轉陸院様御里

松平安芸守重晟殿奥様  
智岳院様 邦姫様御事  
深広院様 陽姫様御事

上杉大炊頭重定殿奥様  
葵香院様 豊姫様御事  
右暁山様御姉

上杉当彈正大弼治広殿奥様  
純姫様 尾張宗睦殿御養女  
右暁山様御姪

芳林院様斗御両敬

松平肥前守様

交代御寄合  
松平哲吉様

御寄合  
松平求馬之介様

寛政九丁巳年閏七月改

〔内藤家文書一―一七〇―一〕

## 二 御縁家様御由緒覚書

(表紙)  
〔寛政九丁巳年閏七月後之分  
御縁家様御由緒覚書  
御用部屋〕

享和元酉年八月十八日  
一岡部主税様御両敬被仰合  
右此度御本家様より御養子も被成候付

右之御続合も有之御両敬

文化九甲年五月廿八日  
一酒井信濃守様御両敬被仰合

信濃守忠寧殿室  
右牧野豊前守以成殿御妹

文化九甲年七月廿七日  
一増山河内守様御両敬被仰合

河内守正寧殿室  
右牧野豊前守以成殿御妹

文化十酉年五月廿六日  
一井伊掃部頭様御両敬被仰合

内藤金一郎政優殿  
右掃部頭直亮殿御弟

文化十二亥年七月十八日  
一井伊右京大夫様御両敬被仰合

右京大夫直朗殿御娘  
右充真院様御兄直亮殿室

同年同日  
一真田弾正大弼様御両敬被仰合

弾正大弼幸專殿  
右充真院様御実方御伯父

後政順公奥方様者  
直亮殿御妹、其後直亮殿  
御末弟政義公  
政順公御養子

土方家

道山様御女

梅窓院様

長山様御女

月宮院様

土方河内守雄次殿御室

貞享元子七月土方伊賀守様有故御預被

為成

右伊賀守様ハ風山様御甥故

小出家

風山様御女

春台院様 小出備前守英安殿御室

〔\*部分付箋〕

四万五千石 但馬国 出石城主 小出久千代

元禄九年十月日卒、無御子断絶

小出備前守様御家断絶之由御座候、若右之

久千代様御家ニ而可有之哉

小出信濃守様御系図ニ左之通

吉英

左京大夫

重吉

修理亮

英増

備前守

吉親

伊勢守

此伊勢守様御家当信濃守様

〔此御名乗此方様ニハ英安卜有之〕

〔\*〕 伊東家

道山様御女

宝龍院様 伊東主膳正祐豊殿御室

〔\*部分付箋〕

伊東左京亮祐肃殿御系図左之通

伊東修理大夫祐慶殿御二男

主膳正祐豊殿

賜二千俵三千石分知

堂上方御由緒

三條様御家

転法輪様とも奉称

風山様後之奥様

廓法院様

三條左府実秀殿御女

大炊御門様御家

風山様御嫡 義邦公御養子

弥十郎義龍公京都ニ御隠居鏡雪様卜御改

涼風院様

実大炊御門左府経光殿御子

鏡雪様御子

経音殿

大炊御門経光殿御養子

鷲尾様御家

享保五年六月

鏡雪様御姫様鷲尾大納言様江御入輿

六條様御家

台徳院様御代六條様御姫様御守殿御奉公

被成候処、御大名様方ニ六條様御由緒之御方様無之ニ付

上意ニ而此方様御里分ニ被為成、年々御屋敷江御宿下

被成御世話共被成被進候、右之御由緒を以今ニ六條様ニ而者

此方様を厚御親族之御取扱ニ被成候旨

右御上臈之御腹ニ保科肥後守正之殿御誕生之由

右六條様雜掌嶋田兵庫物語書留

暁山様御統

尾張大納言宗睦殿

松平掃部頭勝長殿

松平弾正大弼勝当殿

右暁山様御兄

内藤美濃守様

仁兵衛忠政殿御四男

式部少輔政次殿御家

是迄御両敬之御方様

内藤亀吉様

左馬助政長公御養弟、実松平三藏直勝殿御子、政長公依御願被 召出

久五郎直政殿御家

直勝殿ハ政長公御妹躰、直勝殿有故断絶、依而御子直政殿、政長公御養弟として内藤姓ニ御改直勝殿御嫡子權之助直政殿御家督之節、依御願御二男八左衛門章政殿江千石之内三百石御分知

内藤岩五郎様

久五郎直政殿御二男

八左衛門章政殿御家

紀州家御付属

内藤甚五左衛門殿

右京進義清公御二男

甚五左衛門忠郷殿御家

御旧縁之御家

三宅 (貼紙) 「三宅備前守様御家歟」

道山様奥様

桜吟院様

三宅惣右衛門康貞殿御女

道山様御女  
貞松院様

三宅大膳亮康盛殿御室

松平肥後守様御家

道山様御女  
泰教院様

肥後守正之殿御室

松平壱岐守定剛様御家

道山様御女  
長栄院様

美作守定房殿御室

松平播磨守頼説様御家

兼山様御妹  
徹山様御女

御五代先

法珠院様

播磨守頼永殿御室

尾張宗勝公御女  
品姫様

御隠居  
右京大夫頼前殿御室

右曉山様御姉

平岡家

道山様御女  
真空院様

平岡石見守頼資殿御室

承応二巳年有故一万七千石御改易、御嫡子市十郎様江千石被下候由

風山様御女  
慶高院様

平岡市十郎頼重殿御室

蒲生家

道山様御女  
松寿院様

中務大輔忠知殿御室

寛永十一年八月 日卒、無御嗣子断絶

松平玄蕃頭忠福殿御二男  
当主水正正剛殿

当玄蕃頭忠福殿御祖父  
松平玄蕃頭忠曉殿御女

賢明院様

右玄蕃頭忠曉殿ハ

和泉守乗春殿ハ

玄蕃頭忠曉殿ハ

賢明院様者

本多豊後守助受様  
御旧縁被為在候ニ付御両敬

松平久五郎武厚様

武厚殿御妹  
御里

御父 右近将監武寛殿

御母 松平讚岐守頼泰殿御女  
光寿院様

戸田采女正氏教様

松平右近将監武元殿御二男  
当采女正氏教殿

右御姫様御伯父

安藤对馬守信成様

松平右近将監武元殿御女  
当对馬守信成殿御室

右御姫様御伯母

酒井雅楽頭忠道様

松平讚岐守頼泰殿御女  
雅楽頭忠以殿御室

右光寿院様御兄弟二而当雅楽頭忠道殿ハ

御同姓  
御姫様御従弟

御同姓

内藤山城守様

御四代目  
左馬助政長公御四男

兵部少輔政晴殿御家

忠興公御拝領之二万石御分与

内藤主殿頭様

御五代目  
帯刀忠興公御三男

遠山主殿頭政亮殿御家

新田一万石御分知

御三代目主殿頭政貞殿内藤姓ニ御改

内藤豊前守様

御二代目  
弥次右衛門清長公御養子

豊前守信成殿御家

内藤越前守様

御三代目  
豊前守信照殿御二男

三左衛門信全殿御家

内藤甲斐守様

甚五左衛門忠郷殿御二男

四郎左衛門正成殿御家

内藤大和守様

甚五左衛門忠郷殿御四男  
仁兵衛忠政殿男

修理亮清成殿御家

松平主殿頭忠馮様

久世出雲守広明殿御女

主殿頭忠恕殿御室

右芳林院様御姪

忠馮殿御父

井上老岐守政紀様

尾張宗勝公御子

筑後守正国殿

右暁山様御兄

正紀殿御養父

青山下野守忠裕様

忠裕殿御祖父

御隠居

左兵衛佐忠高殿御女

岡部当美濃守長備殿御室

竹腰山城守勝起殿御二男  
当老岐守正紀殿  
右暁山様御甥

竹腰小傳次睦群様

尾張宗勝公御子

山城守勝起殿

右暁山様御兄

阿部越前守様

内藤梶山政苗殿御養妹

遠江守正元殿御室

右法山様御妹之御統、

御女二而御從弟女也

実内藤靱負政則殿

細川能登守利庸様

尾張宗勝公御子内藤大和守頼由殿御養子

内藤駿河守頼多殿御女

当能登守利庸殿御室

右暁山様御姪

佐竹亀丸義和様

御四代先

老岐守義道殿御室

右法山様御伯母

内藤山城守政森殿  
御女

阿部駿河守正常様

御三代先

駿河守正賀殿御室

右内藤豊前守信旭殿御妹

松平阿波守治昭様

佐竹老岐守義道殿御四男

御隠居

大炊頭重喜殿

治昭殿御父

右佐竹義道殿之御室ハ内藤山城守政森殿御女二而

法山様卜大炊頭様者御從弟

当玄蕃頭様御妹

内藤紀伊守信凭殿御室

脇坂淡路守安董様

御六代先

淡路守安清殿御女

内藤山城守政里殿御室

右内藤梶山様御母堂

京極備前守高久様

内藤豊前守式信殿御四男

備後守高長殿

高久殿御父

高木主水正正剛様

一 御縁家様御由緒覚書

(表紙)  
「御縁家様御由緒覚書」

御用部屋」

諏訪因幡守忠肅様

長山様御女  
長春院殿

御五代先  
因幡守忠晴殿御室

岡部美濃守長備様

風山様御女  
久昌院殿

御六代先  
美濃守長泰殿御室

芳林院様御里

御父 十輪院殿  
御母 桂輪院殿

御四代先  
美濃守長著殿  
松平左近将監乘邑殿御女

松平山城守信愛様

風山様奥様  
黄梅院殿

御九代先  
山城守忠国殿御女

土屋但馬守英直様

義山様奥様  
光安院殿

御六代先  
相模守政直殿御女

松平紀伊守信彰様

義山様御女 円山様御姉  
蓮池院殿

御四代先  
紀伊守信岑殿御室

徹山様御女 兼山様御妹  
随月院殿

右信岑殿後ノ御室

松平勘助様

徹山様御子  
教受院殿

齋宮信政殿

上野介信周殿御養子  
兼山様御兄

小出主水様

兼山様御女  
麗鏡院殿

白水有相殿御室

松平和泉守乘寛様

御四代先  
左近将監乘邑殿御女 岡部美濃守長著殿御室  
桂輪院様御里  
右芳林院様御母公

松平能登守乘保様

松平左近将監乘邑殿御子桂輪院様御兄  
能登守乘蒞殿  
右当能登守乘保殿御父  
能登守乘賢殿御養子

牧野佐渡守宣成様

松平左近将監乘邑殿御女桂輪院様御姉  
照  
久昌院殿  
御三代先  
因幡守明成殿御室  
後豊前守以成殿室  
政順公御姉

岡部外記様

芳林院様御伯父  
筑前守長皓殿  
御本家  
美濃守長著殿御弟

芳林院様御妹  
真常院殿  
古外記様御室

久世大和守広敦様

岡部美濃守長著殿御女芳林院様御姉  
高證院殿  
広敦殿御父  
出雲守広明殿御室

性を起点にした関係性や姻戚関係の情報が多く含まれるという特徴がある。内藤家文書には複数の系図が含まれているが、親族関係を一望できる史料は多くはない。ここで紹介する三点の史料は、内藤家の親族関係を理解する上で基礎的な史料といえよう。

注1 記事中に「彦根藩大参事新野古拙様」の名があり、新野の大参事就任期間は明治二年八月から同三年一月まで（佐々木克編『彦根城博物館叢書1幕末維新の彦根藩』二〇〇一年、による）であるため、この時期のものと分かる。

\* 明治大学博物館刑事部門

本稿の内容は JSPS 科研費 26770230（代表 日比佳代子）の助成を受けたものである。

## 凡例

- 一、本稿は明治大学博物館刑事部門所蔵内藤家文書「御縁家様御由緒覚書」（内藤家文書一―一七〇―一）、「御縁家様御由緒覚書」（内藤家文書一―一七〇―二）、「御本家御同姓御縁家御両敬等」（内藤家文書一―一七二）を翻刻したものである。
- 一、翻刻にあたり、改行をはじめとする体裁ならびに用字については、原本の形を尊重するようにつとめた。ただし、必要に応じて読点「、」をつけた。
- 一、用字については原則として原本の表記に従ったが、異体字などはわかりやすく改めた。また、助詞として使用される、「江」（え・へ）、「而」（て）、「者」（は）は活字を小さくして使用した。

- 一、原文にある欠字は一字あきとした。
- 一、表紙・朱書・付箋・貼紙などは「」を付し、その旨を（ ）で傍らに注記した。誤記などの場合は（ママ）を付した。抹消部分には「~~△~~」を付し、訂正がある場合はその字句を記した。抹消線や手書きの線が朱の場合は傍らに（朱）と注記した。虫損などによる判読不能箇所は□とした。

## VIII 内藤家親族関係史料

\* 日比 佳代子

内藤家は三河国姫郷に居住した重清の代に松平宗家に服従し、その子の義清は三河国上野城主を命じられて、岡崎五人衆として松平家に仕えた。義清の孫にあたる家長は、徳川家の関東移封にしたがつて三河国を離れ、上総国佐貫に二万石を拝領した。関ヶ原の前哨戦伏見城の戦いで家長が戦死すると、慶長五年（一六〇〇）に家長が遺領を相続し、家長の戦功に対する幾度かの加増を経て、元和八年（一六二二）に陸奥国磐城平七万石を拝領する。政長の後、忠興、義概、義孝、義稠、政樹（実父は義孝の兄の義英）が藩主となり、政樹の時、延享四年（一七四七）に同石高で日向国延岡に転封する。政樹の後、政陽（実父は安中藩内藤政里）、政脩（実父は尾張藩徳川宗勝）、政韶（実父は政陽）、政和（実父は政脩）、政順（実父は政韶）、政義（実父は彦根藩井伊直中）、政挙（実父は掛川藩太田資始）が藩主となり、政挙の代で明治を迎える。主に忠興以降の藩政関係史料と近代の史料が内藤家文書として今日に伝わっており、これらは明治大学博物館が所蔵している。

本稿では、内藤家文書の中から、内藤家と親族関係などのある人や家を書き上げた次の三点の史料を紹介する。

史料一 御縁家様御由緒覚書

史料二 御縁家様御由緒覚書

史料三 御本家御同姓御縁家御両敬等

史料一は、最初は項目なしで三〇名分の記載があるが、それ以降は「御同姓」、「御旧縁之御家」、「堂上方御由緒」、「暁山様御統」、「芳林院様斗御両敬」の項目が立てられ、人名や家（ただし、殆どが人名

名で家はわずかである）が内藤家との関係と共に書き上げられている。関係は、同姓については義清以降、それ以外は政長以降のもので、巻末には寛政九年（一七九七）閏七月に本史料を改めた旨の記載がある。

史料二は、寛政九年閏七月以降の分と表紙に記されており、史料一に続くものである。史料一、史料二のどちらも、御用部屋が作成している。ただし、記載形式は史料一と異なり、項目立てはなく、名前と両敬関係を結んだ日付、内藤家との関係が書き上げられており、両敬関係に特化した記載となっている。最後の書き上げは明治元年（一八六八）八月の日付である。

史料三は明治二、三年頃の状況をまとめたもので<sup>（注1）</sup>、「御末家」、「御同姓」、「御縁家」、「御両敬」、「大殿様御統合御養家方」、「大殿様御実方」、「充真院様御統書」、「殿様御統書」の項目で名前などが書き上げられている。「殿様御統書」の項目の後に、近代の内藤家にかかわる記載が続くが、本稿ではこの部分は省略している。なお、目録上の表題が「御本家御同姓御縁家御両敬等」であるため、そのまま掲載したが、「御本家」は「御末家」の誤りであろう。

史料三で「御両敬」に書き上げられた者については、内藤家との関係は記されていないが、確証が得られなかった旗本数家と二家の大名家以外は、史料一か史料二で内藤家との関係をたどる事ができている。史料一から三をもちいれば、内藤家の藩政時代の親族関係をおおよそ知ることができ、そこから展開した両敬関係を把握することが可能である。さらに、史料一から三には系図には現われにくい女



## 明治大学博物館年報 2022年度

---

2024年 3月 1日 発行

編集 日比佳代子・島田和高

発行 明治大学 学術・社会連携部 博物館事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4448 FAX 03-3296-4365

URL <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

---



